

九州・山口方言の若年層に見られる 不快感を表す形容語

山 県 浩

1. はじめに

[1] 本稿は、福岡県の若年層における不快感を表す形容語に関する前稿（山県2006）の不備を補うとともに、九州・山口各県の実態を報告するものである。

山県2006では、福岡市及び福岡県内各地域における〈ウザイ〉を中心とする不快感を表す形容語の使われ方について、いくつかの観点から報告した。

しかし、紙面の制約のため、3調査によって得られた回答を集計した資料を提示することができなかった。そこで、本稿は、山県2006の論拠となるデータを別表の形で提示することを第一の目的とする。

併せて、今後の本格的な調査に備え、問題の所在を明らかにするため、不快感を表す諸形式の使われ方について、九州・山口各県の実態を略述することを第二の目的とする。

[2] 山県2006では、不快感を表す形容語の中でも〈ウザイ〉に注目して報告した。それに対して、本稿では、不快感に関する意味の枠に注目し、各項目における諸形式の使われ方を報告する

従って、前稿では〈ウザイ〉の回答率が低いため除外した2項目も扱うため、本稿では、3調査7種の質問項目で、九州・山口8県の回答について考察することになる。

2. 調査の概要

[1] 本稿では、福岡大学学生に対する多肢選択式によるアンケート調査の集計結果のうち、不快感に関する3調査7種の質問項目で、九州・山口8県出身者の回答を対象とする。

3回の調査の詳細は、次の如くである。

調査1；2004年9月、05年6月 有効回答者=316名（男=113名・女=203名）

調査2；2005年9・10月、06年4月 有効回答者=461名（男=176名・女=284名・不明=1名）

調査3；2006年4月 有効回答者=380名（男=161名・女=219名）

[11] 調査は有効回答者が300名を越えるよう山県の担当講義で行ったが、調査3では永井太郎先生・佐野宏先生担当の講義（共通教育科目）で行っていただいた。

受講生は全学年に及ぶが、共通教育科目の受講生が多いため、1・2年生が過半数を占める。従っ

て、本稿でいう「若年層」とは《20歳前後の大学生》となる。

「有効回答者」とは、回答した者のうち《出身地とする都道府県に小学校・中学校・高等学校の在学期間（6歳～18歳）在住していた者》で、「回答に不備のない者」である。

[12] 有効回答者は、九州・山口8県の出身、福岡県出身者は5地域（福岡市・福岡域・北九州域・筑豊域・筑後域）の出身に分けて回答を集計した。^{注(1)}

一大学のアンケート調査の常として出身の偏りが存する。例えば、県単位では、福岡県は常に200名を越えるが、他の7県は、調査2で佐賀県・熊本県が30名を越えるだけで、多くは10名台・20名台である。調査によっては大分県・宮崎県・鹿児島県で10名以下となることがある。

福岡県内に極端な偏りは存しないが、県全体で福岡市が常に3割を占め、周辺の福岡域を含めると常時6割を占める。山口県を除くと、九州各県では同じく県庁所在地およびその周辺域の出身者が各県で多数を占める。

以上のような様々な偏り故に、本稿に示した九州・山口各県での使われ方の特徴は、一応の結論ではあるが、今後詳しく調査・考察していくべき問題点とも考えられたい。今後は、本調査を踏まえ、各県の大学生に対する多人数調査とともに世代差を問題にした面接調査を予定している。

[2] 本稿では、次のa～gの7種の質問によって得られた回答について報告する。

項目 a 一週間以上雨が降り続いたようなときに感じるうっとうしい気持ちを自宅で家族と話をするとき何と言いますか。 略称〈長雨のときの気持ち〉 調査1

項目 b 丸一日立ち仕事のアルバイトをした後などに感じる肉体的な疲労感を… 略称〈立ち仕事による疲労感〉 調査1

項目 c 冬の夕方どんよりと雲がたれ込め、雨や雪が降りそうで降らない、重くはつきりしない空模様のときに感じる嫌な気持ちを… 略称〈はつきりしない空模様のときの気持ち〉 調査2

項目 d 体調はよいけれども、やる気・気力が出なくて何もしたくなときの気持ちを… 略称〈何もしたくなときの気持ち〉 調査2

項目 e 前髪が伸びてきて目に掛かるようになったときに感じる嫌な気持ちを… 略称〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉 調査3

項目 f お腹が空いて力が出ないときに感じる身体的な不快感を… 略称〈空腹感に伴う身体的な不快感〉 調査3

項目 g お風呂に入り、夕食を済ませてくつろいでいると、雨が激しく降ってきました。そんな時電話がかかってきて、父を駅まで迎えに行くことになりました。このように雨の日の夜に出掛けなければならなくなったときに感じる行きたくない嫌な気持ちを… 略称〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉 調査3

[21] 本調査は、不快感に関する意味の枠の中で諸形式を捉える立場を採る。

詳細は、山県2006に譲るが、国語国立研究所編『分類語彙表・増補改訂版』「3.3 精神および行為」【3.30 心】を中心とする、10数種の分類項目の不快感を表す形容語によって表されるものを

「不快感に関する意味の枠」と称し、調査の基点とした。更に、調査のため、各種国語辞典・類語辞典の説明や用例によって、形容語を約50語に絞り込んだ。

そして、これらについて、陣内1990に倣い、不快感を催させる刺激の質・種類に注意して質問を作成した。

項目a～gの出発点になった『分類語彙表・増補改訂版』所載の形容語は、次の如くである。ただ、前稿・本稿で論じてきた結果、質問・選択肢の一部に問題が存し、再調査の必要性を感じているものもある。

項目a〈長雨のときの気持ち〉→ 3.3014 01「うっとうしい」

項目b〈立ち仕事による疲労感〉→ 2.3003 07「疲れる」

項目c〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉→ 3.3014 01「うっとうしい」

項目d〈何もしたくないときの気持ち〉→ 3.3014 02「おっくう」

項目e〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉→ 3.3014 02「うるさい」

項目f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉→ 3.3003 01「ひだるい」

項目g〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉→ 3.3014 02「面倒臭い」

[22] 回答形式は、質問に対して示した20～30の選択肢の言い方から《普段使う》ものを複数選択させる方法である。

選択肢の言い方は、各調査の半年か1年前に行った、同一の質問による記述式の調査で得られたものを中心とする。

質問で指定した《普段》の場面は「自宅で家族と話をするとき」である。

新形式を対象とする調査では「同世代の友達（または大学の友達）と話をするとき」が妥当であろう。しかし、地域的な伝統的方言を求めることを第一としたため、この設定とした。

[3] 検討は、各形式の回答率（各地域の有効回答者数に対して占める各形式の回答数の割合＝百分比・%）に基づいて行う。

ただ、調査2を例にすると、有効回答者が福岡県で281名であるのに対し、宮崎県は8名に過ぎない。このように実数に大きな違いのある場合、百分比で比較することには様々な問題が存し、然るべき有意差検定を行うべきかもしれない。

しかし、本稿は、今後の調査に向けた、問題の所在を明らかにするための準備的な存在としての一面も持つ。厳密を期するあまり、すべての比較で有意差検定を行うことは、限られた紙面の中、却って論を煩雑にするだけであると判断した。

ただ、客観的な基準がある訳ではないが、有効回答者が10名以下となる地域の回答については、1名の回答ミスが全体に与える影響が大きいため、その扱いには十分注意を払う。

3. 本稿の目的

[1] 本稿は、不快感に関する意味の枠を設定し、その中で諸形式を捉える質問形式に依る。

前稿(山県2006)では、諸形式の中で特に〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉という「ウザイ」系の言い方に注目して、項目ごとにどの程度使われるのか、他にどのような共通語形・新形式・伝統的方言がどの程度使われるのか、これらの中で〈ウザイ〉はどのような位置にあるのか。更に、項目を比較した場合、これらにどのような違いが見られるのか、〈ウザイ〉の使われ方に関係するのはどのような意味(不快感)であるのか。これらを福岡市出身者の回答を基準にしたとき、県内他地域ではそれぞれどのような実態で、どのような違いが見られるのかなどを問題とした。

本稿の第一の目的は、既述の如く、山県2006で示せなかった3調査の回答を別表の形で示すことである。併せて、前稿は福岡県内の地域差を述べるだけであったため、九州・山口各県での〈ウザイ〉の使われ方を報告する。

ただ、前稿の欠を補うだけであれば、別表とその説明を掲げれば事が足りる。しかし、今後の本格的な調査のため、本稿では、不快感に関する意味の枠に注目して、各項目における諸形式の使われ方について、九州・山口各県の実態、即ち、当地域の地域差のあり様を報告することも目的とする。

このように不快感に関する意味の枠に注目するため、前稿では、〈ウザイ〉の回答率が福岡県全体で10%に満たないため、扱わなかった2項目(調査1・項目b〈立ち仕事による疲労感〉と調査3・項目f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉)も対象とする。

従って、本稿では、前稿で扱った項目番号1～5と異なる項目番号a～gで7項目を示す。^{注(2)}

[2]九州・山口方言における不快感に関する研究で、特定地域における記述的な研究は少なくない。しかし、地域差を問題としたものは、永瀬2002の如き言語地図を除けば限られる。

例えば、真田1998では、「めんどうくさい」「嫌な感じだ」という意味で〈ウザッタイ〉を使うかという質問形式による福岡市・北九州市・熊本市・宮崎市・鹿児島市の5世代調査が報告されている。

その後新しい調査もあろうが、方法も含め、体系的な比較研究は緒に付いたばかりのように思われる。本稿にしても、回答者の偏りや調査票の問題が存するアンケート調査に依るものである。そこで、本稿は、今後重点的な調査・考察が行えるようにするための備えとして、問題とすべき項目・地域・形式の大凡を洗い出すことを第一に考えたため、論中で従来の研究を詳しく示すことはせず、注で辞典類の記述を参照するに留めた。

4. 調査結果・考察

[0]本章では、不快感を表す諸形式の使われ方について、九州・山口各県における地域差のあり様を報告する。

この場合、山県2006との関連を保つため、〈ウザイ〉について、本章[1]項以下で九州・山口各県での使われ方を述べる。

次に、41章で、7項目ごとに、福岡県の実態を基準にしたとき、九州・山口各県で各形式の使わ

れ方がどのように異なるかを検討し、形式の使われ方に基づく項目ごとの地域差のあり様をまとめる。

42章では、41章を受け、8県ごとに、7項目が代表的な形式によってどのように言い分けられるか、また言い分けられないかを通して、7項目による不快感に関する意味の枠と諸形式の関わり方を検討し、この意味と形式の枠組み、具体的には7項目の区分に基づく全体的な地域差のあり様をまとめる。

[1] 本稿で扱う7項目は、不快感に関する意味の枠としてまだ体系的なものではない。

ただ、項目・県ごとの検討に先立ち、項目相互の関係を確認し、前稿との関連を保つため、九州・山口各県での〈ウザイ〉の使われ方について述べる。

具体的には、福岡県の回答につき、7項目で〈ウザイ〉の使われ方がどのように異なるか、更に福岡県での〈ウザイ〉の用法はどのようなものであるかを記述する。それを基準にしたとき、九州・山口7県ごとにその使われ方・用法はどのように異なるか、各県の特徴をまとめる。

そのための資料として、九州・山口8県ごとに〈ウザイ〉の回答率（単位は%）の高い順に7項目を並べると、次の如くである。

福岡県；項目 a 64.8・項目 e 61.8・項目 c 32.7・項目 g 27.8・項目 d 11.4・項目 f 5.0・
項目 b 2.3

佐賀県；項目 a 55.0・項目 e 48.3・項目 g 44.8・項目 c 35.1・項目 d 21.6・項目 f 6.9／
項目 b 0.0

長崎県；項目 e 89.5・項目 a 76.2・項目 g 63.2・項目 c 44.4・項目 d 22.2・項目 f 15.8／
項目 b 0.0

熊本県；項目 a 76.9・項目 e 64.7・項目 c 35.5・項目 d 12.9・項目 f 11.8・項目 g 5.9／
項目 b 0.0

大分県；項目 e 58.8・項目 c 46.2・★項目 a 28.6・項目 g 17.6・項目 f 5.9／★項目 b 0.0・
項目 d 0.0

宮崎県；項目 e 54.5・★項目 a 50.0・項目 g 27.3・★項目 c 12.5／★項目 b 0.0・★項目 d 0.0・
★項目 f 0.0

鹿児島県；項目 e 70.6・★項目 a 50.0・項目 c 20.8／★項目 b 0.0・項目 d 0.0・項目 f 0.0・
項目 g 0.0

山口県；項目 e 70.6・項目 a 58.3・項目 g 29.4・項目 c 23.5・項目 d 17.6・項目 f 5.9／
項目 b 0.0

※ ★印は、該当地域の有効回答者が10名以下の調査・項目であることを示す。以下、同様。

これに基づいて [2] 項で福岡県での〈ウザイ〉の使われ方を略述し、[3] 項でそれを基準にして九州・山口7県の特徴をまとめる。

[2] 前稿では、福岡県全体の平均的なあり様として5項目は【項目 a・e>項目 c・g>項目 d】という3分類に納まると述べた（山県2006 4章 [32] 項参照）。

新たに項目 b・f が加わるが、この 2 項目は〈ウザイ〉の回答率が県全体で 10% 以下であるため扱わなかっただけに枠組みは変わらない。ただ、回答率の差を考慮すると、【項目 a・e > [項目 c・g > 項目 d > 項目 b・f]】の如く、回答率が過半数を超える項目 a・e とそれ以外の 5 項目の対立を基盤とする 4 分類が妥当であろう。

即ち、この枠組みから福岡県の〈ウザイ〉の用法を考えると、「鬱陶しさ」を表すことが中心的な用法と言える。この場合、原因が「一週間降り続いた雨」という感覚に直接関与しないもの（項目 a〈長雨のときの気持ち〉）と「伸びてきて目に掛かる前髪」という感覚的・直接的なもの（項目 e〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉）の違いはあまり関係ない。

ただ、同じ「鬱陶しさ」でも「(冬の) 雨や雪が降りそうで降らない重くはっきりしない空模様」故の不快感の如く、原因が長雨に比べると曖昧で、多分に精神的な場合（項目 c〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉）には〈ウザイ〉が使われることは少ない。

原因がまだ生じていない、「雨の日の夜に出掛けねばならなくなったとき」という、これからそうすることを考えて生ずる精神的な不快感が問題となる場合（項目 g〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉）でも〈ウザイ〉が使われることは少ない。様々な調査でその代表的な用法とされるが、この「面倒くささ」を表す用法は、福岡県では周辺的な位置にある。

更に、項目 g と「気の進まなさ」という点で共通するが、自分自身の「やる気・気力のなさ」という自立的な原因である場合（項目 d〈何もしたくないときの気持ち〉）では一層〈ウザイ〉は使われなくなる。また原因が「立ち仕事」や「空腹」という具体的なものであっても、「肉体的な疲労感」（項目 b〈立ち仕事による疲労感〉）や「力の出なさ」（項目 f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉）という身体的な不快感の場合も殆ど使われない。

[3] 福岡県での使われ方を基準にしたとき、他の九州・山口各県での〈ウザイ〉の使われ方・用法は、どのように異なるか、各県の特徴をまとめる。

[31] 佐賀県での使われ方は、基本的に福岡県でのそれとほぼ同様である。

ただ、項目 g が項目 c より回答率が高く、項目 e とあまり変わらない値であることが目立った相違点である。このため、福岡県で周辺的な位置とした項目 g において本県では〈ウザイ〉の用法が拡大していると言える。

なお、佐賀県では伝統的方言〈セカラシイ〉が一定の回答率を有する。回答率は 50% を越えないが、〈ウザイ〉の回答率と並行的なところがあり、〈セカラシイ〉の回答率が高い項目は〈ウザイ〉の回答率も高い（項目 a・e・g）。^{注(3)}

〈セカラシイ〉；項目 g 44.8・項目 a 40.0・項目 e 37.9・項目 c 32.4・項目 d 13.5・項目 f 10.3 /
項目 b φ

[32] 長崎県での〈ウザイ〉の使われ方は、福岡県でのそれと異なる点が少なくない。

全体的に項目 b を除く 6 項目すべてで福岡県より回答率が 10% 以上高い。中でも項目 g は 63.2% と高く、福岡県の倍の値である。項目 g で回答率が 50% を越えるのは、九州・山口 8 県の中で本県だけである。また項目 f の回答率も 8 県の中で最も高い。

なお、本県に特徴的な形式として〈ヤゼラシイ〉の縮約形と言われる新形式〈ヤゼイ〉が存する（井上・鎌水2002 p.220）。佐賀県の〈セカラシイ〉と同じく〈ウザイ〉の回答率と相関が見られる。即ち、〈ヤゼイ〉の回答率の高い項目は〈ウザイ〉の回答率も高く（項目 a・e・g）、〈ヤゼイ〉の回答率の低い項目は〈ウザイ〉の回答率も低い（項目 d・f）。

〈ヤゼイ〉；項目 e 57.9・項目 g 57.9・項目 a 52.4・項目 c 48.1・項目 d 25.9・項目 f 21.1 /
項目 b φ

〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉と〈ウザイ〉の相関の背景としては、今後の調査で詳しく検討しなければならないが、これら地域に特徴的な形式に簡単に置き換えられる（ほぼ同じ用法の）新形式として〈ウザイ〉を受け入れていることがあるのではないかと考える。福岡県と異なり、両県とも項目 g で〈ウザイ〉の回答率が高い。同じく項目 g で〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉の回答率も高いことから、当地域固有の〈ウザイ〉の受け入れ方があるように思われる。

[33] 熊本県での使われ方は、佐賀県・長崎県と異なった形で項目 g に特徴が存し、同時にそれが福岡県での使われ方との違いになっている。

即ち、前 2 県と対照的に項目 g の回答率が本県では低い。前稿で対象としなかった項目 f より低い。

一方で、項目 a・e や項目 c の回答率は福岡県と殆ど変わらない。その点で、「鬱陶しさ」を基点に「面倒くささ」を表すことまで用法を拡大させていた福岡県に対して、熊本県では〈ウザイ〉の原点である「鬱陶しさ」を表すことに留まっていると言える。

なお、熊本県には佐賀県・長崎県の如く地域に特徴的な形式が目立たない。これも、ある面、〈ウザイ〉を原点の用法に留まらせている要因であるかもしれない。

[34] 大分県での使われ方は、福岡県でのそれと異なる点が多い。

例えば、福岡県で最も回答率の高い項目 a が福岡県の約半分で、30%で切るなど、福岡県より高いのは項目 c のみで、ほぼ同程度か、より低い回答率であることが多い。

一般的な回答率の低さは、次の宮崎県でも見られる。これについては、伝統的方言〈ヨダキイ〉との関連が考えられる。

即ち、次の如く〈ヨダキイ〉の回答率の高い項目で、特に〈ウザイ〉の回答率が低い（項目 a・g・d）。逆に〈ヨダキイ〉の回答率の低い項目で、〈ウザイ〉の回答率が高い（項目 e・c）。

〈ヨダキイ〉；★項目 a 85.7・項目 g 76.5・項目 d 61.5・項目 f 47.1・★項目 b 42.9・
項目 c 38.5・項目 e 17.6

ただ、〈ヨダキイ〉は、佐賀県の〈セカラシイ〉・長崎県の〈ヤゼイ〉と異なり、〈ウザイ〉と完全に重ならないため、一般的な本県での回答率の低さまで説明することはできない。

[35] 宮崎県での使われ方についても、大分県でのそれを同じく、〈ヨダキイ〉との関連が見られる。

ただ、宮崎県の〈ヨダキイ〉は項目 a の回答率が低い（33.3% cf. 大分県85.7%）。これに反比例して〈ウザイ〉の回答率が宮崎県より高く（50.0% cf. 大分県28.6%）、福岡県と同じく項目 e・a が上位を占める。

しかし、全体的には、大分県と同じく、〈ヨダキイ〉の回答率の高い項目で〈ウザイ〉の回答率が低く（項目 g・d）、〈ヨダキイ〉の回答率の低い項目で〈ウザイ〉の回答率が高い（項目 e）。

〈ヨダキイ〉；項目 g 81.8・★項目 d 75.0・★項目 b 50.0・★項目 f 45.5・★項目 a 33.3・
★項目 c 12.5・項目 e 9.1

以上、大分県・宮崎県の〈ヨダキイ〉につき、〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉と異なる、〈ウザイ〉との関連が見られることを述べた。しかし、それは数的な相関を指摘しただけで、〈ウザイ〉の受け入れ方まで説明していない。大分県・宮崎県とも有効回答者が10名以下の場合が多く、今後重点的な調査が必要である。

[36] 鹿児島県での使われ方も特徴的で、福岡県でのそれと異なる点が目立つ。

例えば、〈ウザイ〉が回答されたのは、項目 e・a・c だけで、他の4項目は回答率0%である。

これら3項目は、いずれも「鬱陶しさ」が問題となるもので、熊本県以上に原点の用法に限定されている。また回答率の点でも【項目 e > 項目 a > 項目 c】と暫減し、不快感の原因の直接性・具体性に対応し、それが弱まるに連れて〈ウザイ〉の回答率が低くなる。

一方で、地域に特徴的な形式〈テソイ〉との関連も見られる。即ち、〈テソイ〉の回答率と〈ウザイ〉の回答率には、〈ヨダキイ〉の場合以上と言える相関が認められる。即ち、〈ウザイ〉の回答率の暫減に反比例するように〈テソイ〉の回答率は高くなり、〈ウザイ〉の回答のない4項目で〈テソイ〉の回答率は40%を越える。

〈テソイ〉；項目 g 58.8・項目 d 58.3・★項目 b 50.0・項目 f 41.2・項目 c 29.2・
★項目 a 16.7・項目 e 5.9

勿論、大分・宮崎両県と同様、鹿児島方言においても〈ウザイ〉〈テソイ〉について意味・用法を記述した上で、世代差調査を行わなければ、数的な相関が有意なものであるかは判断できない。

[37] 山口県での〈ウザイ〉の使われ方は、隣接するだけに福岡県でのそれに近い。

福岡県に対して、項目 a・c で回答率が低くなる一方、項目 e で回答率が高くなるなど、より具体的な感覚で〈ウザイ〉が使われるようになっていく。しかし、7項目の並び方は大きく変わらない。

なお、山口県には〈エライ〉という地域に特徴的な形式が存する。ただ、これまでの九州各県に特徴的な諸形式と異なり、項目 b・d・f という身体的な不快感や自立的な気の進まなさを表す用法が中心で、〈ウザイ〉と重なるところが殆どない。このため、7項目の限りでは〈ウザイ〉の使われ方との関連は認められない。

[4] 福岡県での〈ウザイ〉の使われ方を基準に九州・山口7県での使われ方・用法がどのように異なるかなどをまとめた。

基本的に項目 a 〈長雨のときの気持ち〉・項目 e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉で〈ウザイ〉が最も回答率が高く、どの県でも上位を占める。これらの「鬱陶しさ」を表すことが〈ウザイ〉の中心的な用法であろう。

福岡県で中位に位置する項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉・項目 g 〈雨夜の出迎

えのときの気持ち〉のうち、**項目c**は各県とも回答率がある程度安定している。しかし、**項目g**では県による回答率の違いが大きい。長崎県では60%を越えるが、熊本県では5.9%、鹿児島県では0%となる。

福岡県で〈ウザイ〉の回答率が20%以下で、下位に位置する**項目b**〈立ち仕事による疲労感〉・**項目d**〈何もしたくないときの気持ち〉・**項目f**〈空腹感に伴う身体的な不快感〉のうち、**項目b**はまだ〈ウザイ〉とは無関係なものとして除外できる。

項目fも各県とも数的にはまだ〈ウザイ〉が表す不快感として定着したものと言えない。

項目dは、佐賀県・長崎県で20%を越える一方、大分県・宮崎県・鹿児島県では0%である。**項目g**ほどではないが、今後地域差が拡大していく可能性がある。

以上の如き、九州・山口各県における〈ウザイ〉の使われ方の違いについて、一部の地域では各地域に特徴的な形式との関連が見られた。具体的には、〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉や〈ヨダキイ〉〈テソイ〉との関連である。ただ、前2形式と後2形式とは関連のあり方が異なる。即ち、その使われ方（回答率の高低）において、〈ウザイ〉と〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉では正比例、〈ウザイ〉と〈ヨダキイ〉〈テソイ〉では反比例していた。

しかし、熊本県の如く、このような形式が存しない場合でも〈ウザイ〉の使われ方に特徴の見られることがあった。別の事情を考えるべきであろう。

4.1. 項目単位

[0] 本章では、項目ごとに福岡県での不快感を表す諸形式の使われ方を示し、それを基準にしたとき、他の九州・山口7県での使われ方がどのように異なるかを検討して、不快感に関する意味の枠ごとの地域差のあり様をまとめる。

福岡県の実態を述べる際には、前稿の確認も兼ね、福岡県内の地域差にも言及する（詳しくは、山県2006 4章 [33] 項参照）。前述の如く、福岡市及びその周辺地域の出身者が福岡県出身者全体の6割を占めるが、隣接諸県との連続性を考えると、筑後域や北九州域の実態を捉えておく必要があるためでもある。

なお、別表—I～VIIに諸形式の回答数と回答率を示した。更に山県2006同様、回答率20%以上の形式を「一定の回答率を持つ安定した言い方」として論中値の高い順に示して理解の助けとする。その際、本稿は、前稿の補充的な側面を持つため、〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉や地域に特徴的な形式の回答率は20%未満の場合でも示すことがある。

以上、別表と形式一覧に基づいて検討を行うが、その際、特に福岡県で回答率の高い上位グループの3形式に注目する。福岡県以外の各県でそれらがどのような位置でどのような回答率で使われているか、それら以外に優勢な言い方としてどのような形式が存するかなどを検討することで、地域差のあり様を述べる。

このように回答率の高い形式を中心に検討するのは、紙面の関係もあるが、各県の有効回答者の違いが大きいことへの配慮でもある。

[1] 項目 a 〈長雨のときの気持ち〉 別表—I 参照

福岡県全体では〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉が高率で並ぶ。これらに〈シャーシイ〉〈ウザッターイ〉以下の諸形式が続くが、これらの回答率はすべて40%以下である。

福岡県；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉64.8・〈シャーシイ〉30.5・〈ウザッターイ〉25.8・〈ユウウツ（ナ）〉21.1・〈セカラシイ〉17.4…

佐賀県；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉55.0・〈セカラシイ〉40.0・〈ウザッターイ〉35.0…

長崎県；〈ウザイ〉76.2・〈ウットウシイ〉〈ヤゼイ〉52.4・〈ウザッターイ〉33.3・〈セカラシイ〉28.6・〈ヤグラシイ〉23.8…

熊本県；〈ウザイ〉76.2・〈ウットウシイ〉46.2・〈ウザッターイ〉23.1・〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉15.4…

★大分県；〈ウットウシイ〉〈ヨダキイ〉85.7・〈シャーシイ〉〈ユウウツ（ナ）〉42.9・〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉28.6…

★宮崎県；〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉50.0・〈ウットウシイ〉〈ヨダキイ〉33.3…

★鹿児島県；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉50.0・〈ウザッターイ〉33.3…〈テソイ〉16.7…

山口県；〈ウザイ〉58.3・〈ウットウシイ〉〈ユウウツ（ナ）〉41.7・〈ウザッターイ〉33.3・〈タイギ（ナ）〉〈ナンギ（ナ）〉25.0…

[11] 福岡県内、福岡市・福岡域・北九州域・筑豊域では、地域によって10%以上の差が存することもあるが、〈ウザイ〉と〈ウットウシイ〉が高率で、上位3形式目の〈シャーシイ〉を含め、他の諸形式を大きく引き離している。

しかし、筑後域では、伝統的方言〈セカラシイ〉が〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉とほぼ同じ回答率で、上位3形式目となっている。

[12] 他の九州・山口7県でも全般に〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉がほぼ50%以上の回答率を保っている。

しかし、大分県の〈ヨダキイ〉、宮崎県の〈ウザッターイ〉は、〈ウザイ〉または〈ウットウシイ〉と同率で回答率が最も高い。^{注(4)}

これら2県以外で〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉に続く形式は多彩で、地域的な特徴が見られる。

即ち、佐賀県の〈セカラシイ〉、長崎県の〈ヤゼイ〉、山口県の〈ユウウツ（ナ）〉などは、〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉と同じか、やや低い回答率である。特に佐賀県の〈セカラシイ〉は、筑後域との連続性を物語る。

また熊本県・鹿児島県では〈ウザッターイ〉が続き、〈ウザイ〉の多さの一方で、旧形式が福岡県以外では一定の勢力を有していることが分かる。

[13] 福岡県で優勢な〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉が他県でも同じく上位にあり、全体的には大きな地域差は見られない。

ただ、長崎県の〈ヤゼイ〉、大分県の〈ヨダキイ〉がやや高い回答率で、地域的な特徴となる。しかし、「一週間以上雨が降り続いたようなとき」の「鬱陶しさ」を表す諸形式の中で〈ウザイ〉

〈ウットウシイ〉を中心とする枠組みを揺るがすものではない。

[2] 項目b 〈立ち仕事による疲労感〉 別表—II参照

前稿では、福岡県の〈ウザイ〉の回答率が10%以下であるため、扱わなかった。この傾向は他県でも同様で、九州・山口7県とも回答率0%で、その使われ方において地域差は存しない。

福岡県全体では、〈キツイ〉が高率で、〈ツカレタ〉〈ダルイ〉が同率の60%台で続き、上位3形式目はほぼ50%の〈シンドイ〉である。

福岡県；〈キツイ〉86.9・〈ツカレタ〉64.8・〈ダルイ〉62.9・〈シンドイ〉49.3・〈クタビレタ〉30.5…〈ウザイ〉2.3・〈ウザッタイ〉0.9…

佐賀県；〈キツイ〉95.0・〈ダルイ〉65.0・〈ツカレタ〉55.0・〈シンドイ〉35.0・〈クタビレタ〉25.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

長崎県；〈キツイ〉90.5・〈ツカレタ〉66.7・〈ダルイ〉52.4・〈シンドイ〉28.6…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

熊本県；〈キツイ〉92.3・〈ツカレタ〉76.9・〈ダルイ〉61.5・〈クタビレタ〉〈シンドイ〉38.5…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

★大分県；〈キツイ〉〈ダルイ〉〈ツカレタ〉85.7・〈クタビレタ〉〈シンドイ〉〈ヨダキイ〉42.9…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

★宮崎県；〈キツイ〉〈シンドイ〉〈ダルイ〉〈ツカレタ〉66.7・〈ヨダキイ〉50.0・〈ダレタ〉33.3…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

★鹿児島県；〈キツイ〉〈ダルイ〉66.7・〈シンドイ〉〈ダレタ〉〈ツカレタ〉〈テソイ〉50.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

山口県；〈エライ〉100・〈キツイ〉〈シンドイ〉83.3・〈ツカレタ〉58.3・〈ダルイ〉50.0・〈クタビレタ〉25.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

[21] 福岡県内各地域とも〈キツイ〉の回答率が最も高く、それに〈ツカレタ〉〈ダルイ〉が続き、それらに〈シンドイ〉が次ぐ点で共通する。

前項の〈セカラシイ〉の如く、これらに割り込む、地域に特徴的な形式は見られない。地域的な違いは、〈キツイ〉以外の回答率の差が異なる程度で、福岡市で〈ツカレタ〉が〈キツイ〉に並ぶ高さであること、筑後域で〈シンドイ〉が20%と低率であることなどが目に止まる。

[22] 他の九州諸県でも〈キツイ〉を筆頭に〈ツカレタ〉〈ダルイ〉、そして〈シンドイ〉が優勢である点は共通する。ただ、〈シンドイ〉が50%以上の回答率を持つ地域は宮崎県・鹿児島県に限られる。

地域的な特徴として、例えば、佐賀県・長崎県・熊本県は、福岡県と殆ど同じであるが、〈ツカレタ〉と〈ダルイ〉に一定の回答率の差が存することがある。

大分県・宮崎県・鹿児島県は、いずれも有効回答者が10名以下であるが、福岡県同様上記4形式が50~40%以上の回答率を有する。そして、これらに続く、または並ぶのが大分県・宮崎県の〈ヨダキイ〉、鹿児島県の〈テソイ〉である。ただ、すべて50%を越えることはない。

九州7県で〈キツイ〉が最も高い回答率を有するが、山口県では〈エライ〉が有効回答者12名全員に選択される回答率100%で、〈キツイ〉を上回る。また〈シンドイ〉が〈キツイ〉と並んで高率である点も中国地方故と言えるかもしれない。

[23] 九州各県とも福岡県と同じく基本的に〈キツイ〉を中心に〈ツカレタ〉〈ダルイ〉が続く点で大きな地域差は見られない。

しかし、山口県では〈エライ〉が最も優勢で、一線を画することができる。その点で本項目は「九州 対 中国 (山口県)」という地域差が顕著である。

[3] 項目c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉 別表一Ⅲ参照

福岡県全体では〈ウットウシイ〉〈ウザイ〉〈ユウウツ (ナ)〉〈オモクルシイ〉〈ダルイ〉が上位の形式であるが、回答率が50%を越える形式はなく、最も高い〈ウットウシイ〉で42.0%に過ぎず、〈ウザイ〉以下は30%前後で並ぶ。

福岡県； 〈ウットウシイ〉 42.0・ 〈ウザイ〉 32.7・ 〈ユウウツ (ナ)〉 29.9・ 〈オモクルシイ〉 28.8・ 〈ダルイ〉 27.8… 〈ウザッタイ〉 11.0…

佐賀県； 〈ウザイ〉 35.1・ 〈セカラシイ〉 32.4・ 〈ウットウシイ〉 〈ダルイ〉 27.0・ 〈オモクルシイ〉 〈ユウウツ (ナ)〉 21.6… 〈ウザッタイ〉 13.5…

長崎県； 〈ヤゼイ〉 48.1・ 〈ウザイ〉 44.4・ 〈ウットウシイ〉 37.0・ 〈ユウウツ (ナ)〉 33.3・ 〈ダルイ〉 29.6… 〈ウザッタイ〉 3.7…

熊本県； 〈ウザイ〉 〈ウットウシイ〉 35.5・ 〈オモクルシイ〉 〈オモタイ・オモイ〉 〈ダルイ〉 〈ユウウツ (ナ)〉 32.3・ 〈セカラシイ〉 22.6… 〈ウザッタイ〉 19.4…

大分県； 〈ウットウシイ〉 69.2・ 〈ウザイ〉 46.2・ 〈ヨダキイ〉 38.5・ 〈シャーシイ〉 〈ユウウツ (ナ)〉 30.8・ 〈ウザッタイ〉 〈ダルイ〉 23.1…

★宮崎県； 〈ウットウシイ〉 50.0・ 〈ユウウツ (ナ)〉 37.5・ 〈カッターイ〉 〈セカラシイ〉 〈ダルイ〉 25.0… 〈ウザイ〉 〈ウザッタイ〉 〈ヨダキイ〉 12.5…

鹿児島県； 〈ダルイ〉 41.7・ 〈テソイ〉 29.2・ 〈ウットウシイ〉 25.0・ 〈ウザイ〉 〈オモクルシイ〉 〈ユウウツ (ナ)〉 20.8… 〈ウザッタイ〉 4.2…

山口県； 〈ウットウシイ〉 47.1・ 〈ユウウツ (ナ)〉 41.2・ 〈ウザイ〉 〈オモクルシイ〉 〈タイギ (ナ)〉 23.5… 〈ウザッタイ〉 17.6…

[31] 福岡県内どの地域でも〈ウットウシイ〉の回答率が最も高いが、50%を越えるのは筑豊域だけである。

回答が割れているためか、〈ウザイ〉については男女差や項目内での位置など、様々な面で特異性が見られた(山県2006 4章 [23] 項・ [342] 項参照)。

県内の地域差は、項目aと同じく筑後域で〈セカラシイ〉の回答率が〈ウットウシイ〉に次ぐ高さであること程度である。

[32] 他の九州・山口7県でも50%を越える回答率の形式が見られる地域は稀である。

各県で回答率の最も高い形式は、佐賀県・熊本県で〈ウザイ〉、長崎県で〈ヤゼイ〉、熊本県・大

分県・宮崎県・山口県で〈ウツウシイ〉、鹿児島県で〈ダルイ〉である。福岡県で最も高い〈ウツウシイ〉は、佐賀県・長崎県・鹿児島県では20～30%台に留まる。

これらの中では〈ヤゼイ〉という地域に特徴的な形式が最も高い点で長崎県が際立つ。ただ、大分県の〈ヨダキイ〉、鹿児島県の〈テソイ〉も回答率は高くないが、福岡県での使われ方を基準にすると、両県で上位に位置する形式として地域性を示す。また佐賀県の〈セカラシイ〉も〈ウザイ〉に次ぐ回答率で、筑後域との連続性を物語る。

[33] 項目 a・b と異なり、福岡県での使われ方との違いが大きい。

しかし、それは各県に特徴的な形式が高い回答率で上位を占めるというあり様でなく、全般に回答率が低いために福岡県で上位を占める形式が入れ替わった結果と言えなくもない。しかし、この中で、佐賀県の〈セカラシイ〉、長崎県の〈ヤゼイ〉、大分県の〈ヨダキイ〉、鹿児島県の〈テソイ〉は県ごとに位置は異なるが、地域的に特徴的な形式として九州内での地域差をなす。

[4] 項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉 別表—IV 参照

前稿で扱った5項目の中で〈ウザイ〉の回答率が全県的に低い項目であった。

福岡県全体では〈ダルイ〉〈キツイ〉が70%台・60%台と高く、これらに〈メンドイ〉が50%を若干切る回答率で続く。

- 福岡県； 〈ダルイ〉 75.1・〈キツイ〉 65.5・〈メンドイ〉 48.0・〈シンドイ〉 32.4・〈メンドウクサイ〉 30.2・〈カッターイ〉 20.3… 〈ウザイ〉 11.4・〈ウザッターイ〉 3.2…
- 佐賀県； 〈ダルイ〉 70.3・〈キツイ〉 67.6・〈シンドイ〉〈メンドイ〉 32.4・〈メンドウ(ナ)〉 24.3・〈ウザイ〉〈メンドウクサイ〉 21.6… 〈ウザッターイ〉 8.1…
- 長崎県； 〈ダルイ〉 77.8・〈キツイ〉 59.3・〈メンドイ〉 44.4・〈メンドウクサイ〉 33.3・〈ヤゼイ〉 25.9・〈ウザイ〉〈シンドイ〉 22.2… 〈ウザッターイ〉 0.0
- 熊本県； 〈キツイ〉 80.6・〈ダルイ〉 67.7・〈メンドイ〉 41.9・〈シンドイ〉 38.7・〈メンドウクサイ〉 32.3・〈メンドウ(ナ)〉 25.8… 〈ウザイ〉 12.9・〈ウザッターイ〉 9.7…
- 大分県； 〈ダルイ〉 84.6・〈キツイ〉 76.9・〈ヨダキイ〉 61.5・〈メンドイ〉 53.8・〈シンドイ〉 46.2・〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉 30.8… 〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉 0.0
- ★宮崎県； 〈ダルイ〉 87.5・〈ヨダキイ〉 75.0・〈シンドイ〉 50.0・〈キツイ〉〈メンドイ〉 37.5・〈カッターイ〉〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉 25.0… 〈ウザッターイ〉 12.5・〈ウザイ〉 0.0
- 鹿児島県； 〈ダルイ〉 87.5・〈テソイ〉 58.3・〈メンドイ〉 41.7・〈キツイ〉〈シンドイ〉 33.3… 〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉 0.0
- 山口県； 〈エライ〉 88.2・〈ダルイ〉 76.5・〈シンドイ〉 58.8・〈キツイ〉 52.9・〈オックウ(ナ)〉 35.3・〈メンドイ〉 29.4・〈カッターイ〉〈タイギ(ナ)〉 23.5… 〈ウザイ〉 17.6・〈ウザッターイ〉 5.9…

[41] 福岡県内すべての地域で〈ダルイ〉の回答率が最も高く、これに〈キツイ〉〈メンドイ〉が続く。

相違点は、県全体の傾向と異なり、北九州域で〈メンドイ〉の方が〈キツイ〉より高いことであるが、同じ50%台の違いに過ぎない。

他の項目と異なり、筑後域に特徴的な形式の回答率が低いため、県内差は存在しないに等しい。

[42] 九州各県は、熊本県で〈キツイ〉、他の5県で〈ダルイ〉が90~70%の高率で最も高い。

これらに熊本県で〈ダルイ〉、佐賀県・長崎県・大分県で〈キツイ〉、宮崎県・鹿児島県で〈ヨダキイ〉〈テソイ〉が続く。いずれもほぼ60%以上の回答率である。

上位3形式目は〈メンドイ〉以外に〈シンドイ〉や大分県で〈ヨダキイ〉が見られる。ただ、3形式目ながら〈ヨダキイ〉は60%台である。

以上、〈ダルイ〉〈キツイ〉が優勢な九州7県と異なり、山口県では、項目bと同じく〈エライ〉の回答率が最も高い。

[43] 山口県における〈エライ〉の存在のため、「九州 対 中国 (山口県)」という地域差が顕著な項目である。

その次のレベルとして、福岡県同様に〈ダルイ〉〈キツイ〉〈メンドイ〉を基本とする北西部の各県とそれらに〈ヨダキイ〉〈テソイ〉が割り込む南東部という九州内の地域差が存する。

全体的な地域差のあり様は、〈ヨダキイ〉〈テソイ〉の回答率が高いため、項目bより大きく多彩である。

本項目は、『分類語彙表』の「おっくう」を出発点とする。〈オックウ (ナ)〉の回答率は、山口県で35.3%と、〈キツイ〉の次ぐ高さであるが、九州各県では熊本県の16.1%が最高である。山口県では〈タイギ (ナ)〉も20%を越える(九州では福岡県で1名回答)。〈エライ〉以外にこれら形容動詞系の諸形式の使用も山口県の特徴と言えるかもしれない。

[5] 項目e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉 別表—V参照

福岡県では〈ウザイ〉の回答率が項目aと並ぶ高さを持つ項目である。

福岡県全体では、同じ60%台で〈ジャマ (ナ)〉〈ウットウシイ〉〈ウザイ〉が並び、これら以外の形式との差は大きい。

福岡県； 〈ジャマ (ナ)〉 67.2・ 〈ウットウシイ〉 66.4・ 〈ウザイ〉 61.8・ 〈ウザッターイ〉 27.0
・ 〈シャーシイ〉 24.1・ 〈ジャマクサイ〉 21.6…

佐賀県； 〈ジャマ (ナ)〉 65.5・ 〈ウザイ〉 48.2・ 〈ウットウシイ〉 41.4・ 〈セカラシイ〉 37.9
・ 〈ウザッターイ〉 31.0・ 〈シャーシイ〉 〈ジャマクサイ〉 24.1…

長崎県； 〈ウザイ〉 89.5・ 〈ジャマ (ナ)〉 68.4・ 〈ヤゼイ〉 57.9・ 〈ウットウシイ〉 36.8・
〈ウザッターイ〉 〈ヤゼラシイ〉 26.3・ 〈ジャマクサイ〉 〈セカラシイ〉 〈メザワリ〉 〈ヤ
グラシイ〉 21.1…

熊本県； 〈ウザイ〉 64.7・ 〈ジャマ (ナ)〉 58.8・ 〈ウットウシイ〉 〈ジャマクサイ〉 41.2・
〈ウザッターイ〉 35.3・ 〈ヤゼラシイ〉 23.5・ 〈セカラシイ〉 17.6…

大分県；〈ウツウシイ〉82.4・〈ジャマ（ナ）〉70.6・〈ウザイ〉58.8・〈ウザッターイ〉〈シャーシイ〉〈メザワリ〉23.5…〈ジャマクサイ〉〈ヨダキイ〉17.6…

宮崎県；〈ウツウシイ〉81.8・〈ウザッターイ〉72.7・〈ウザイ〉〈ジャマ（ナ）〉〈ジャマクサイ〉54.5…〈ヨダキイ〉9.1…

鹿児島県；〈ウザイ〉70.6・〈ウツウシイ〉64.7・〈ジャマ（ナ）〉47.1・〈ジャマクサイ〉41.2・〈ウザッターイ〉29.4 …〈テソイ〉5.9…

山口県；〈ウザイ〉70.6・〈ジャマ（ナ）〉58.8・〈ウツウシイ〉52.9・〈ウザッターイ〉47.1・〈ジャマクサイ〉35.3…

[51] 福岡県内どの地域でも〈ジャマ（ナ）〉〈ウツウシイ〉〈ウザイ〉が回答率の高い形式として並ぶが、地域によっては形式間に一定の回答率の差が存することもある。

ただ、筑後域を除くと、これら3形式と他の形式との差は大きい。筑後域では〈セカラシイ〉が〈ウツウシイ〉と同じ回答率（51.9%）で並び、本項目での〈セカラシイ〉の値は7項目の中で最も高い。^{注(5)}

[52] 他の九州・山口7県でも福岡県と同じく〈ジャマ（ナ）〉〈ウツウシイ〉〈ウザイ〉が上位に並ぶ。

福岡県で〈ウザイ〉は際立った存在でないが、長崎県・熊本県・鹿児島県・山口県では3形式の中で回答率が最も高い。一方、佐賀県では福岡県と同じく〈ジャマ（ナ）〉、大分県・宮崎県では〈ウツウシイ〉が最も高い。

福岡県では他の諸形式との差が大きかったが、他県では地域的に特徴的な形式が割って入ることがある。

例えば、長崎県では〈ウザイ〉〈ジャマ（ナ）〉に〈ヤゼイ〉が57.9%で続き、宮崎県では〈ウツウシイ〉に〈ウザッターイ〉が72.7%の高率で続く（注(4)参照）。

なお、佐賀県で〈セカラシイ〉の回答率も低くなく、〈ウツウシイ〉と殆ど変わらないが、筑後域ほどではない（注(5)参照）。

[53] 〈ウザイ〉の回答率の高さで同傾向にある項目aと同じく、本項目でも九州・山口8県の地域差は目立たない。

全地域で項目aの〈ウツウシイ〉〈ウザイ〉に加え、〈ジャマ（ナ）〉が圧倒的に高い回答率で上位を占める。項目aでは長崎県の〈ヤゼイ〉に加え、大分県の〈ヨダキイ〉の回答率も高かった。しかし、本項目では〈ヤゼイ〉が高いだけであるため、地域差は項目aより小さい。

本項目は、『分類語彙表』の「うるさい」を出発点とする。各種国語辞典の「うるさい」の項では、必ず本項目と同じ「前髪」の例文を掲げる。しかし、福岡県内各地、九州・山口各県とも〈ウルサイ〉の回答率は10%に至ることがない。

[6] 項目f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉 別表—VI参照

項目bと同じく身体的な不快感として〈ウザイ〉が殆ど回答されないため、前稿で扱わなかった。ただ、項目bと異なり、〈ウザイ〉の回答率が長崎県・熊本県では10%を越える。

福岡県全体では〈キツイ〉と〈ダルイ〉が拮抗し、〈シンドイ〉が続く。しかし、〈キツイ〉〈ダルイ〉の回答率は50%台前半にすぎず、最も回答率の高い形式としては7項目の中で**項目c**の〈ウツトウシイ〉に次ぐ低さである。

福岡県；〈キツイ〉55.2・〈ダルイ〉53.9・〈シンドイ〉38.6・〈ヒモジイ〉24.1・〈ツライ〉19.9…〈ウザイ〉5.0・〈ウザッターイ〉1.2…

佐賀県；〈キツイ〉51.7・〈ダルイ〉48.3・〈シンドイ〉27.6・〈カッターイ〉24.1・〈ヒダ
ルイ〉〈ヒモジイ〉20.7…〈ウザイ〉6.9・〈ウザッターイ〉0.0

長崎県；〈シンドイ〉〈ダルイ〉52.6・〈キツイ〉42.1・〈ヒモジイ〉36.8・〈ツライ〉26.3
・〈ヤゼイ〉21.1…〈ウザイ〉15.8・〈ウザッターイ〉0.0

熊本県；〈ダルイ〉70.6・〈キツイ〉47.1・〈シンドイ〉〈ヒモジイ〉36.3…〈ウザイ〉11.8
・〈ウザッターイ〉5.9…

大分県；〈ダルイ〉58.8・〈キツイ〉52.9・〈ヨダキイ〉47.1…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉5.9
…

宮崎県；〈シンドイ〉63.6・〈ダルイ〉54.5・〈ヨダキイ〉45.5・〈ヒモジイ〉36.4・〈キツ
イ〉27.3…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉0.0

鹿児島県；〈ダルイ〉52.9・〈シンドイ〉〈テソイ〉41.2・〈キツイ〉35.3…〈ウザイ〉〈ウザッ
ターイ〉0.0

山口県；〈エライ〉64.7・〈ダルイ〉58.8・〈キツイ〉52.9・〈シンドイ〉〈センナイ〉29.4
…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉5.9…

[61] 福岡県内各地域とも県全体の傾向と同じく、〈キツイ〉と〈ダルイ〉が拮抗し、二番手として〈シンドイ〉が続く。

福岡域・北九州域・筑後域では〈キツイ〉の方がやや高く、筑豊域では〈ダルイ〉の方が高く、福岡市では両形式は同じ回答率である。これらに〈シンドイ〉が続く。しかし、筑後域以外は40%前後の回答率であるが、筑後域のみ20%を僅かに越える程度である。項目bでも筑後域の〈シンドイ〉のみ20.0%で、他4地域は45~60%であった。一貫した地域的な特徴と言えようか。

[62] 福岡県で上位を占める3形式は、九州各県でも同じく上位に位置する。

佐賀県・長崎県・熊本県は、福岡県とほぼ同傾向であるが、長崎県で〈シンドイ〉が〈ダルイ〉と並んで最も高い回答率を示すことは目立つ。逆に佐賀県では〈シンドイ〉が30%を切る。筑後域との地域的な連続性を伺わせる。

一方、大分県・宮崎県・鹿児島県では上位3形式目として〈ヨダキイ〉〈テソイ〉が40%を超える回答率で位置する。このため、大分県で〈シンドイ〉、宮崎県・鹿児島県で〈キツイ〉の回答率が低い。

山口県では、項目b・dほど高率でないが、〈エライ〉の回答率が最も高い。一方で、〈ダルイ〉〈キツイ〉も福岡県と変わらない回答率である。項目bの〈キツイ〉、項目dの〈ダルイ〉と同じく、〈エライ〉の存在の一方に見られる九州各県と共通する側面である。

[63] 本項目に見られる地域差のあり様は、**項目b**と**項目d**の中間的な状態である。

これら3項目ともに山口県の〈エライ〉が特徴をなすことは言うまでもないが、大分県・宮崎県の〈ヨダキイ〉・鹿児島県の〈テソイ〉が諸形式の中で**項目d**ほど高い位置でなく、また**項目b**ほど低い位置でないためである。

これら地域に特徴的な形式が福岡県で優勢な〈キツイ〉〈ダルイ〉、そして〈シンドイ〉にどのように絡んでいくか、その関わり方の違いが地域差となっている。

本項目は、『分類語彙表』の「ひだるい」を出発点にする。ただ、〈ヒダルイ〉は佐賀県だけで回答され、20%もの回答率を有する。^{注(6)}

[7] **項目g**〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉 別表—Ⅶ参照

項目a・**e**に比べると、〈ウザイ〉の回答率は低く、**項目c**とともに福岡県では中位に位置する。ただ、地域による回答率の違いが大きい（4章[4]項参照）。

福岡県全体では〈メンドイ〉の回答率が高く、次に位置する〈メンドウクサイ〉と約20%の差がある。これに〈ウザイ〉が続くが、回答率は30%を切り、優勢な形式とは言えない。

福岡県；〈メンドイ〉64.3・〈メンドウクサイ〉45.2・〈ウザイ〉27.8・〈メンドウ（ナ）〉22.4・〈メンドッチー〉21.2・〈ダルイ〉18.3…〈ウザッターイ〉9.1…

佐賀県；〈ウザイ〉〈セカラシイ〉〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉44.8・〈メンドウ（ナ）〉27.6・〈シャーシイ〉20.7…〈ウザッターイ〉13.8…

長崎県；〈ウザイ〉〈メンドイ〉63.2・〈ヤゼイ〉57.9・〈ダルイ〉〈メンドウクサイ〉36.8・〈ヤグラシイ〉26.3・〈シンドイ〉〈メンドウ（ナ）〉〈ヤゼラシイ〉21.1…〈ウザッターイ〉10.5…

熊本県；〈メンドウクサイ〉58.8・〈メンドイ〉52.9・〈ダルイ〉29.4…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉5.9…

大分県；〈ヨダキイ〉76.5・〈メンドウクサイ〉41.2・〈ダルイ〉35.3・〈シャーシイ〉〈メンドイ〉〈メンドウ（ナ）〉23.5…〈ウザイ〉17.6・〈ウザッターイ〉11.8…

宮崎県；〈ヨダキイ〉81.8・〈ダルイ〉72.7・〈メンドイ〉54.5・〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉45.5・〈ウザイ〉27.3…〈ウザッターイ〉0.0

鹿児島県；〈テソイ〉58.8・〈メンドウクサイ〉52.9・〈ダルイ〉47.1・〈メンドイ〉41.2・〈メンドウ（ナ）〉35.3・〈シンドイ〉23.5…〈ウザッターイ〉5.9・〈ウザイ〉0.0

山口県；〈メンドイ〉82.4・〈ダルイ〉52.9・〈シンドイ〉〈タイギ（ナ）〉〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉35.3・〈ウザイ〉〈メンドウ（ナ）〉29.4…〈ウザッターイ〉0.0

[71] 福岡県内すべての地域で〈メンドイ〉の回答率が最も高い。それに筑後域以外で〈メンドウクサイ〉〈ウザイ〉が続くが、〈メンドウクサイ〉も高い地域で50%である。

筑後域では〈メンドイ〉に〈セカラシイ〉が続く。その回答率は40%程度であるが、〈セカラシイ〉の存在が**項目a**・**c**・**e**と同じく福岡県内で筑後域を際立たせる。

[72] 福岡県の上位3形式は九州・山口7県でも高い回答率を有するが、3形式が揃って、また福

岡県と同じ序列で上位に位置することはない。

例えば、〈メンドイ〉の回答率が圧倒的に高いのは、山口県だけである。確かに佐賀県・長崎県では〈メンドイ〉の回答率は最も高いが、〈ウザイ〉〈セカラシイ〉などと同率で、長崎県では5%内外の差で〈ヤゼイ〉が続く。また熊本県では〈メンドウクサイ〉が最も高い。更に大分県・宮崎県・鹿児島県では〈ヨダキイ〉〈テソイ〉が最も高く、〈メンドイ〉は20~55%程度で上位3形式目以下である。

[73] 項目b・d・fにおける山口県の〈エライ〉を除くと、九州各県で地域的に特徴的な形式が特定の項目で最も高い回答率を示すことは珍しい。

しかし、それが本項目では3県で見られる。その点で、福岡県での使われ方を基準に地域差のあり様を検討してきたが、本項目が九州内での地域差が最も大きいと言える。地域に特徴的な形式はこれまで通りであるが、〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉〈ヨダキイ〉〈テソイ〉の本項目gの値は、7項目中常に1位か2位の高さである(4章[3]項参照)。

[8] 本章では、項目ごとに福岡県での不快感を表す諸形式の使われ方を示し、それを基準に九州・山口各県の地域差のあり様を検討した。

基本的に福岡県は共通語形かそれに基づく新形式〈メンドイ〉や独立した新形式〈ウザイ〉が優勢で、県全体では、〈セカラシイ〉〈シャーシイ〉などの伝統的方言は過半数の回答率を得ることはなかった。

このような福岡県を基準にすると、当然の結果であるが、地域に特徴的な形式が根強い項目・地域ほど地域差が大きく、地域性が際立つ。従って、熊本県の如くそのような形式の多くない地域では、たとえ福岡県との違いが存しても、同じ枠組みでの回答率の違い程度でしか地域性が現れない。

ただ、佐賀県のように〈セカラシイ〉という特徴的な形式が存しながらも、その回答率が低いいため、結果的にその地域性があまり際立たない場合もある。

以上3県に対して、長崎県で〈ヤゼイ〉、大分県・宮崎県で〈ヨダキイ〉、鹿児島県で〈テソイ〉、山口県で〈エライ〉などが、いくつかの項目にわたって高い回答率を得ていた。このため、これらの回答率の高い項目では地域差が顕著なものとなり、該当県の地域性が際立つことになる。

即ち、〈エライ〉の回答率の高い項目b〈立ち仕事による疲労感〉・項目d〈何もしたくないときの気持ち〉・項目f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉では[九州対中国(山口県)]の地域差が顕著で、〈ヤゼイ〉〈ヨダキイ〉〈テソイ〉の回答率の高い項目c〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉・項目g〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉では九州内の地域差(福岡県・佐賀県・熊本県対長崎県・大分県・宮崎県・鹿児島県)が顕著である。ただ、前者、項目b・d・fでも〈ヤゼイ〉〈ヨダキイ〉〈テソイ〉の回答率の違いによって九州内の地域差のあり様が異なる。そして、項目a〈長雨のときの気持ち〉・項目e〈前髪が目にかかるときの気持ち〉は、〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉の回答率が高く、上記の如き地域差は目立たない。

なお、この[項目b・d・f][項目c・g][項目a・e]という3区分は、〈ウザイ〉の回答率の違いに対応する(4章[4]項参照)。その意味で、現象的には、各県における〈ウザイ〉の

使われ方によって地域差のあり様が異なると言える。

但し、本章で対象とした、各項目で上位に位置する3・4形式のうちで、これら地域に特徴的な形式が占める割合は高くない。原則的には各県・各項目1形式で、多くは福岡県に見られる共通語形・新形式である。多肢選択式のアンケート調査故かもしれないが、基盤においては九州・山口各県の地域差は決して大きなものではない。

4 2. 県 単 位

[0] 前章では、項目ごとに福岡県での使われ方を基準にして、不快感に関する意味の枠ごとの地域差のあり様を述べた。

結果的に重なることもあるが、本章では、九州・山口8県ごとに7項目が代表的な形式によってどのように言い分けられるか、また言い分けられず、複数の項目がどのような形式で言い表されるかなどを検討することを通して、7項目によって構成される不快感に関する意味の枠と諸形式の関わり方、具体的には7項目が諸形式によってどのように区分されるかを述べる。その上で、このような意味と形式の枠組みが該当地域でどのように異なるかをまとめる。

しかし、本稿で扱う7項目は不快感に関する意味の枠として不完全なものであり、本章での検討も上の如き目標を掲げながらも中途半端なものに終わったところがある。ただ、本稿は、今後の調査・考察のための準備的な存在として、問題となる項目・地域・形式を捉えることをも目的としている。地域差のあり様を十全な形で捉えるためにも必要であるが、この目的のためにも、前章の如き項目ごとの地域差に関する検討に加え、上記の如き観点による県ごとの項目に関する検討も必要と考えた。

[01] 本章では、煩雑を避けるため、回答率が40%以上の形式に限定し、更にそれらを次の如く3分類して検討する。

A類 = 回答率70%以上の形式

B類 = 回答率50～69%の形式

C類 = 回答率40～49%の形式

当初50%以上の形式に限定したが、対象となる形式が少ないため、制限を緩めた。しかし、検討の際には、回答率50%以上のものを「優勢な形式」として重視する。

[02] 本章でも、理解の助けとするため、県ごとに回答率20%以上の形式を高い順に示した一覧を示す。併せて、A～C類の形式をまとめた図を論末に付した。適宜参照されたい。

これらに基づいて7項目がどのように区分されるか、その検討を通して各県の意味と形式の枠組みを捉えていく。

この際、作業原則として、次の①②を設けた。

①A・B類（回答率50%以上）の形式が複数の項目で見られる場合、その形式を基盤になる言い方として項目をまとめる。

②出来るだけ区分を少なくするため、50%以上の形式の全く存しない項目でも49%以下の有力な形式を参考にして、項目を区分する。

[1] 福岡県では、7項目は【項目a・e・(c)／項目g／項目d・f・b】と3区分される。^{注(7)}

項目a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉64.8・〈シャーシイ〉30.5・〈ウザッターイ〉25.8・〈ユウウツ(ナ)〉21.1・〈セカラシイ〉17.4…

項目b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉86.9・〈ツカレタ〉64.8・〈ダルイ〉62.9・〈シンドイ〉49.3・〈クタビレタ〉30.5…〈ウザイ〉2.3・〈ウザッターイ〉0.9…

項目c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉42.0・〈ウザイ〉32.7・〈ユウウツ(ナ)〉29.9・〈オモクルシイ〉28.8・〈ダルイ〉27.8…〈ウザッターイ〉11.0…

項目d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈ダルイ〉75.1・〈キツイ〉65.5・〈メンドイ〉48.0・〈シンドイ〉32.4・〈メンドウクサイ〉30.2・〈カッターイ〉20.3…〈ウザイ〉11.4・〈ウザッターイ〉3.2…

項目e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ジャマ(ナ)〉67.2・〈ウットウシイ〉66.4・〈ウザイ〉61.8・〈ウザッターイ〉27.0・〈シャーシイ〉24.1・〈ジャマクサイ〉21.6…

項目f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉；〈キツイ〉55.2・〈ダルイ〉53.9・〈シンドイ〉38.6・〈ヒモジイ〉24.1・〈ツライ〉19.9…〈ウザイ〉5.0・〈ウザッターイ〉1.2…

項目g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈メンドイ〉64.3・〈メンドウクサイ〉45.2・〈ウザイ〉27.8・〈メンドウ(ナ)〉22.4・〈メンドッチー〉21.2・〈ダルイ〉18.3…〈ウザッターイ〉9.1…

[11] 項目a・e・(c)は〈ウットウシイ〉〈ウザイ〉、項目gは「面倒」系の〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉、項目d・f・bは〈ダルイ〉〈キツイ〉が基盤となる。

勿論、特定の項目だけで使われる形式もあり、項目eで〈ジャマ(ナ)〉、項目bで〈ツカレタ〉などが加わる。

なお、基盤となる形式は、原則的にA・B類のものである。しかし、区分がまとめられる場合は作業原則②に依った。従って、項目a・e・(c)で〈ウザイ〉が常に同程度、50%以上の回答率で使われる訳でなく、項目cは32.7%に止まる。このため、()内に記したが、項目cを独立させ、4区分と考えることもできる。

[12] 福岡県の特徴は、伝統的方言が表立たない点である。

県内差は、筑後域とその他4地域で顕著であったが、福岡県として一括すると、福岡市及びその周辺域への回答者の偏りのため、上記の如く共通語形・新形式中心の枠組みとなる。

[2] 佐賀県では、7項目は【項目a・e・(c)／項目(g)／項目d・f・b】と3区分される。

項目a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉55.0・〈セカラシイ〉40.0・〈ウザッターイ〉35.0…

- 項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉95.0・〈ダルイ〉65.0・〈ツカレタ〉55.0・〈シンドイ〉35.0・〈クタビレタ〉25.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0
- 項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉；〈ウザイ〉35.1・〈セカラシイ〉32.4・〈ウツウシイ〉〈ダルイ〉27.0・〈オモクルシイ〉〈ユウウツ（ナ）〉21.6…〈ウザッタイ〉13.5…
- 項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈ダルイ〉70.3・〈キツイ〉67.6・〈シンドイ〉〈メンドイ〉32.4・〈メンドウ（ナ）〉24.3・〈ウザイ〉〈メンドウクサイ〉21.6…〈ウザッタイ〉8.1…
- 項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ジャマ（ナ）〉65.5・〈ウザイ〉48.2・〈ウツウシイ〉41.4・〈セカラシイ〉37.9・〈ウザッタイ〉31.0・〈シャーシイ〉〈ジャマクサイ〉24.1…
- 項目 f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉；〈キツイ〉51.7・〈ダルイ〉48.3・〈シンドイ〉27.6・〈カッターイ〉24.1・〈ヒダルイ〉〈ヒモジイ〉20.7…〈ウザイ〉6.9・〈ウザッタイ〉0.0
- 項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈セカラシイ〉〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉44.8・〈メンドウ（ナ）〉27.6・〈シャーシイ〉20.7…〈ウザッタイ〉13.8…

[21] 項目 a・e・(c) は、その回答率は異なるが、〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉〈セカラシイ〉、項目 g は、40%台の同一回答率である〈ウザイ〉〈セカラシイ〉〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉、項目 d・f・b は、〈ダルイ〉〈キツイ〉がそれぞれ基盤となる。

ただ、項目 c は、40%以上の形式が存しないため、20%台の形式まで含めて判断した。或いは、「優勢な形式なし」という形で、福岡県の場合と同様、独立させるべきであったかもしれない。

[22] 区分の仕方も含め、基本的に福岡県と同傾向を示す。

しかし、地域に特徴的な形式〈セカラシイ〉が、特別優勢ではないが、〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉と同一項目で一定の回答率を有する。また福岡県で〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉が優勢な項目 g において、佐賀県では〈ウザイ〉〈セカラシイ〉がそれらと同程度使われているなど、違いも見られる。

このことから、区分はしたが、福岡県に比べると項目 a・e・(c) と項目 g の境界は低い。

[3] 長崎県では、7項目は【項目 e・a・g・(c) / 項目 d・f・b】と2区分できよう。

項目 a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉76.2・〈ウツウシイ〉〈ヤゼイ〉52.4・〈ウザッタイ〉33.3・〈セカラシイ〉28.6・〈ヤグラシイ〉23.8…

項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉90.5・〈ツカレタ〉66.7・〈ダルイ〉52.4・〈シンドイ〉28.6…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉；〈ヤゼイ〉48.1・〈ウザイ〉44.4・〈ウツウシイ〉37.0・〈ユウウツ（ナ）〉33.3・〈ダルイ〉29.6…〈ウザッタイ〉3.7…

項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈ダルイ〉77.8・〈キツイ〉59.3・〈メンドイ〉44.4・〈メンドウクサイ〉33.3・〈ヤゼイ〉25.9・〈ウザイ〉〈シンドイ〉22.2…〈ウザッタイ〉0.0

項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ウザイ〉 89.5・〈ジャマ(ナ)〉 68.4・〈ヤゼイ〉 57.9・〈ウツウシイ〉 36.8・〈ウザッタイ〉〈ヤゼラシイ〉 26.3・〈ジャマクサイ〉〈セカラシイ〉〈メザワリ〉〈ヤグラシイ〉 21.1…

項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉；〈シンドイ〉〈ダルイ〉 52.6・〈キツイ〉 42.1・〈ヒモジイ〉 36.8・〈ツライ〉 26.3・〈ヤゼイ〉 21.1…〈ウザイ〉 15.8・〈ウザッタイ〉 0.0

項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈メンドイ〉 63.2・〈ヤゼイ〉 57.9・〈ダルイ〉〈メンドウクサイ〉 36.8・〈ヤグラシイ〉 26.3・〈シンドイ〉〈メンドウ(ナ)〉〈ヤゼラシイ〉 21.1…〈ウザッタイ〉 10.5…

[31] 福岡県・佐賀県と比べて項目 g における「面倒」系の諸形式の回答率が低いいため、2区分とした。

これは、佐賀県の枠組みを更に押し進めたものである。即ち、項目 e・a・g・(c) は〈ウザイ〉〈ヤゼイ〉が基盤で、項目 e で〈ジャマ(ナ)〉、項目 a で〈ウツウシイ〉、項目 g で〈メンドイ〉が加わる。

項目 d・f・b は〈ダルイ〉〈キツイ〉が基盤で、項目 f で〈シンドイ〉、項目 b で〈ツカレタ〉が加わる。

[32] 長崎県の特徴は、〈ヤゼイ〉の勢力の強さで、4項目にわたってほぼ50%以上の回答率を有し、特に項目 e・g で高い。

これは、前述の如く〈ヤグラシイ〉から生まれた長崎に特徴的な新形式で、その新しさ故に〈ウザイ〉と共存しながら勢力を維持している。^{注(8)}

今後〈ウザイ〉と〈ヤゼイ〉の意味・用法の重なるの詳細、多く重なる場合は、使い分けの実態、更に〈ヤゼラシイ〉を含めた世代による使われ方の違いなど、詳細な調査が必要である。

[4] 熊本県は【項目 a・e・(c) / 項目 g / 項目 d・f・b】の如く福岡県・佐賀県と同じ3区分であるが、実態は福岡県より佐賀県に近い。

項目 a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉 76.2・〈ウツウシイ〉 46.2・〈ウザッタイ〉 23.1・〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉 15.4…

項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉 92.3・〈ツカレタ〉 76.9・〈ダルイ〉 61.5・〈クタビレタ〉〈シンドイ〉 38.5…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 0.0

項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉 35.5・〈オモクルシイ〉〈オモタイ・オモイ〉〈ダルイ〉〈ユウウツ(ナ)〉 32.3・〈セカラシイ〉 22.6…〈ウザッタイ〉 19.4…

項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈キツイ〉 80.6・〈ダルイ〉 67.7・〈メンドイ〉 41.9・〈シンドイ〉 38.7・〈メンドウクサイ〉 32.3・〈メンドウ(ナ)〉 25.8…〈ウザイ〉 12.9・〈ウザッタイ〉 9.7…

項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ウザイ〉 64.7・〈ジャマ(ナ)〉 58.8・〈ウツウシイ〉〈ジャマクサイ〉 41.2・〈ウザッタイ〉 35.3・〈ヤゼラシイ〉 23.5・〈セカラシイ〉 17.6…

項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉；〈ダルイ〉70.6・〈キツイ〉47.1・〈シンドイ〉
〈ヒモジイ〉36.3…〈ウザイ〉11.8・〈ウザッターイ〉5.9…

項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈メンドウクサイ〉58.8・〈メンドイ〉52.9・〈ダ
ルイ〉29.4…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉5.9…

[41] 各区分の基盤となる形式は、項目 a・e・(c) で〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉、項目 g で〈メ
ンドウクサイ〉〈メンドイ〉、項目 d・f・b で〈キツイ〉〈ダルイ〉の如く福岡県と同一である。

ただ、項目 c には40%以上の形式は存さず、35.5%の〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉で判断した。

特定の項目に見られる形式もほぼ福岡県と同様で、項目 e で〈ジャマ(ナ)〉〈ジャマクサイ〉、
項目 d で〈メンドイ〉、項目 b で〈ツカレタ〉などが加わる。

[42] 熊本県では地域に特徴的な形式の回答率が低い。

このことが上記の如く福岡県と同じような項目区分や基盤となる形式をとる一因となっている。

[5] 大分県は、これまでの4県と異なる区分で、7項目は【項目 e・c/項目 a・g/項目 f・
b・d】と3区分される。

★項目 a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉〈ヨダキイ〉85.7・〈シャーシイ〉〈ユウウ
ツ(ナ)〉42.9・〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉28.6…

★項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉〈ダルイ〉〈ツカレタ〉85.7・〈クタビレタ〉
〈シンドイ〉〈ヨダキイ〉42.9…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉0.0

項目 c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉69.2・〈ウザイ〉46.2・
〈ヨダキイ〉38.5・〈シャーシイ〉〈ユウウツ(ナ)〉30.8・〈ウザッターイ〉〈ダルイ〉
23.1…

項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈ダルイ〉84.6・〈キツイ〉76.9・〈ヨダキイ〉
61.5・〈メンドイ〉53.8・〈シンドイ〉46.2・〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉
30.8…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉0.0

項目 e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉82.4・〈ジャマ(ナ)〉70.6・
〈ウザイ〉58.8・〈ウザッターイ〉〈シャーシイ〉〈メザワリ〉23.5…〈ジャマクサイ〉
〈ヨダキイ〉17.6…

項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉；〈ダルイ〉58.8・〈キツイ〉52.9・〈ヨダキイ〉
47.1…〈ウザイ〉〈ウザッターイ〉5.9…

項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈ヨダキイ〉76.5・〈メンドウクサイ〉41.2・〈ダ
ルイ〉35.3・〈シャーシイ〉〈メンドイ〉〈メンドウ(ナ)〉23.5…〈ウザイ〉17.6・
〈ウザッターイ〉11.8…

[51] これまでの4県では、項目 a・e・c がまとまっていたが、本県では項目 a が項目 g とまと
まる。

即ち、項目 e・c は、〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉を基盤にし、項目 e で〈ジャマ(ナ)〉が加わ
る。項目 a・g は〈ヨダキイ〉を基盤とし、項目 a で〈ウットウシイ〉が加わる。項目 f・b・d

は〈ダルイ〉〈キツイ〉〈ヨダキイ〉を基盤とし、項目bで〈ツカレタ〉、項目dで〈メンドイ〉が加わる。

項目a・gと項目f・b・dで〈ヨダキイ〉が使われるが、回答率の違いから別々の区分とした。この場合、前者、項目a・gで高く、回答率は70%を越える。^{注9)}

[52] 佐賀県・長崎県と同じく本県には地域に特徴的な形式〈ヨダキイ〉が存する。

しかし、〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉は意味・用法の面で〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉と重なるところが大きい。このため、7項目の区分が福岡県の区分と異なることがなかった。一方、大分県と宮崎県に特徴的な〈ヨダキイ〉は、〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉と項目a・eで重なることがあるが、項目gや項目f・b・dでは殆ど重ならない。更に、〈セカラシイ〉〈ヤゼイ〉に比べて回答率が高い。このため、上記の如くその区分をこれまでの諸県の区分と異なったものになっている。

また項目cにおいて、これまでの4県ではA・B類の形式が存しなかったが、大分県では〈ウットウシイ〉が69.2%と高率である点も地域的な特徴である。

[6] 宮崎県は、有効回答者が10名以下の項目が過半数を占めるため、同じ回答率の形式が多くなり、7項目の区分が難しい。煩雑であるが、【項目e・a／項目g／項目c／項目b・d・f】と4区分する。

★項目a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉50.0・〈ウットウシイ〉〈ヨダキイ〉33.3…

★項目b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉〈シンドイ〉〈ダルイ〉〈ツカレタ〉66.7・〈ヨダキイ〉50.0・〈ダレタ〉33.3…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

★項目c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉50.0・〈ユウウツ(ナ)〉37.5・〈カッタールイ〉〈セカラシイ〉〈ダルイ〉25.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉〈ヨダキイ〉12.5…

★項目d 〈何もしたくないときの気持ち〉；〈ダルイ〉87.5・〈ヨダキイ〉75.0・〈シンドイ〉50.0・〈キツイ〉〈メンドイ〉37.5・〈カッタールイ〉〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉25.0…〈ウザッタイ〉12.5・〈ウザイ〉0.0

項目e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉81.8・〈ウザッタイ〉72.7・〈ウザイ〉〈ジャマ(ナ)〉〈ジャマクサイ〉54.5…〈ヨダキイ〉9.1…

項目f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉；〈シンドイ〉63.6・〈ダルイ〉54.5・〈ヨダキイ〉45.5・〈ヒモジイ〉36.4・〈キツイ〉27.3…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉0.0

項目g 〈雨夜の出迎へのときの気持ち〉；〈ヨダキイ〉81.8・〈ダルイ〉72.7・〈メンドイ〉54.5・〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉45.5・〈ウザイ〉27.3…〈ウザッタイ〉0.0

[61] 基盤となる形式は、項目e・aで〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉、項目gで〈ヨダキイ〉〈ダルイ〉及び「面倒」系の諸形式、項目cで〈ウットウシイ〉、項目b・d・fで〈ダルイ〉〈ヨダキイ〉〈シンドイ〉である。

項目gと項目b・d・fをまとめ、基盤として〈ダルイ〉〈ヨダキイ〉を設定する3区分も可能

かもしれない。ただ、項目 b・d・f に共通して〈シンドイ〉が見られる上、項目 g の「面倒」系の諸形式も 60% 以下ながら〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉と、形式が多いため、無視できない。

また、項目 c は、有効回答者が 10 名以下である上、〈ウットウシイ〉以外は、〈ウザイ〉〈ヨダキイ〉が 12.5%（回答者 1 名）であるため、独立させた。

以上の如き事情のため、宮崎県はこれまでにない 4 区分となる。

[62] 大分県同様〈ヨダキイ〉が使われるが、項目 a でその回答率が低く、また〈ウザッタイ〉の回答率が全般に高いことなども加わる。このため、大分県と異なる区分となる。^{注⑩}

項目 c は、上記の如く独立させたが、項目 a・e とまとまる福岡県・佐賀県にしても項目 a・e と項目 c の違いが小さくない。従って、本県の枠組みは、福岡県・佐賀県の枠組みを長崎県の枠組みとは異なった方向へ押し進めたものと言える。

[7] 鹿児島県では、7 項目は【項目 e・a / 項目 (c) / 項目 b・d・f / 項目 g】と 4 区分され、宮崎県と同一である。

★項目 a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉 50.0・〈ウザッタイ〉 33.3…
〈テソイ〉 16.7…

★項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈キツイ〉〈ダルイ〉 66.7・〈シンドイ〉〈ダレタ〉〈ツカレタ〉〈テソイ〉 50.0…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 0.0

項目 c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉；〈ダルイ〉 41.7・〈テソイ〉 29.2・〈ウットウシイ〉 25.0・〈ウザイ〉〈オモクルシイ〉〈ユウウツ (ナ)〉 20.8…〈ウザッタイ〉 4.2…

項目 d 〈何もしたくなときの気持ち〉；〈ダルイ〉 87.5・〈テソイ〉 58.3・〈メンドイ〉 41.7・〈キツイ〉〈シンドイ〉 33.3…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 0.0

項目 e 〈前髪が目にかかるときの気持ち〉；〈ウザイ〉 70.6・〈ウットウシイ〉 64.7・〈ジャマ (ナ)〉 47.1・〈ジャマクサイ〉 41.2・〈ウザッタイ〉 29.4 …〈テソイ〉 5.9…

項目 f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉；〈ダルイ〉 52.9・〈シンドイ〉〈テソイ〉 41.2・〈キツイ〉 35.3…〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 0.0

項目 g 〈雨夜の出迎へのときの気持ち〉；〈テソイ〉 58.8・〈メンドウクサイ〉 52.9・〈ダルイ〉 47.1・〈メンドイ〉 41.2・〈メンドウ (ナ)〉 35.3・〈シンドイ〉 23.5…〈ウザッタイ〉 5.9・〈ウザイ〉 0.0

[71] 項目 e・a は〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉を基盤に、項目 e で「邪魔」系の〈ジャマ (ナ)〉〈ジャマクサイ〉が加わる。

項目 c は、回答が割れ、C 類・40% 台前半の〈ダルイ〉だけである。〈テソイ〉も使われるが、20% 台後半であるため、考慮しない。このため、項目 b・d・f と区分した。これら 3 項目は〈ダルイ〉〈テソイ〉を基盤として、項目 b で〈キツイ〉〈シンドイ〉など、項目 d で〈メンドイ〉、項目 f で〈シンドイ〉が加わる。項目 g は〈テソイ〉〈メンドウクサイ〉を基盤とする。

[72] 地域に特徴的な形式として〈テソイ〉が存し、項目 a・e 以外の 5 項目で 20% 以上の回答率を有するなど、宮崎県の〈ヨダキイ〉に近いものがある。^{注11)}

しかし、全般に回答率は〈ヨダキイ〉ほど高くない。むしろ、注目すべきは、項目 a・e 以外の 5 項目で常に 40% 以上の回答率を有する〈ダルイ〉で、〈テソイ〉より回答率が低いのは項目 g だけである。

世代差調査が必要であるが、ほぼ同じ意味・用法の形式として〈ダルイ〉が〈テソイ〉に取って代わりつつあるのかもしれない。

[8] 山口県では、7 項目は【項目 e・a / 項目 g / 項目 (c) / 項目 d・f・b】と 4 区分される。

宮崎県・鹿児島県など、有効回答者の少ない県では、回答率が同じになる形式が多く、結果的に項目がまとめられずに 4 区分となる側面がない訳でもなかった。しかし、山口県はそれぞれに優勢な形式があった結果の区分である。

項目 a 〈長雨のときの気持ち〉；〈ウザイ〉 58.3・〈ウットウシイ〉〈ユウウツ (ナ)〉 41.7・
〈ウザッタイ〉 33.3・〈タイギ (ナ)〉〈ナンギ (ナ)〉 25.0…

項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉；〈エライ〉 100・〈キツイ〉〈シンドイ〉 83.3・〈ツカレタ〉
58.3・〈ダルイ〉 50.0・〈クタビレタ〉 25.0… 〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 0.0

項目 c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉；〈ウットウシイ〉 47.1・〈ユウウツ (ナ)〉
41.2・〈ウザイ〉〈オモクルシイ〉〈タイギ (ナ)〉 23.5… 〈ウザッタイ〉 17.6…

項目 d 〈何もしたくなときの気持ち〉；〈エライ〉 88.2・〈ダルイ〉 76.5・〈シンドイ〉
58.8・〈キツイ〉 52.9・〈オックウ (ナ)〉 35.3・〈メンドイ〉 29.4・〈カッターイ〉
〈タイギ (ナ)〉 23.5… 〈ウザイ〉 17.6・〈ウザッタイ〉 5.9…

項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉；〈ウザイ〉 70.6・〈ジャマ (ナ)〉 58.8・〈ウツ
トウシイ〉 52.9・〈ウザッタイ〉 47.1・〈ジャマクサイ〉 35.3…

項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉；〈エライ〉 64.7・〈ダルイ〉 58.8・〈キツイ〉 52.9
・〈シンドイ〉〈センナイ〉 29.4… 〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉 5.9…

項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉；〈メンドイ〉 82.4・〈ダルイ〉 52.9・〈シンドイ〉
〈タイギ (ナ)〉〈メンドウクサイ〉〈メンドッチー〉 35.3・〈ウザイ〉〈メンドウ (ナ)〉
29.4… 〈ウザッタイ〉 0.0

[81] 項目 e・a は〈ウザイ〉〈ウットウシイ〉を基盤として項目 e で〈ジャマ (ナ)〉が加わり、
項目 g は〈メンドイ〉〈ダルイ〉、項目 c は C 類の〈ウットウシイ〉〈ユウウツ (ナ)〉を基盤とする。

そして、項目 d・f・b は〈エライ〉〈ダルイ〉〈キツイ〉を基盤し、項目 d・b では〈シンドイ〉
が加わる。

[82] 地域に特徴的な形式である〈エライ〉の回答率の高さが目立つ。^{注12)}

しかし、本調査の 7 項目の中では〈ヨダキイ〉〈テソイ〉の如く広がりを持たない。このことも
本県で 4 区分とする背景となっている。

[9] 本章では、7 項目による不快感に関する意味の枠がどのような形式によって表現し分けられ

るか、あるいは異なる意味の枠がどのような組み合わせで同一の形式によって表現されるかという観点から、県ごとに7項目を区分した。

併せて、各区分で基盤となる形式を示し、一応の不快感に関する意味の枠と形式の関わり方とした。

ここでは、本章のまとめとして、九州・山口8県でこのような意味と形式の枠組みがどのように異なるか、またどのように共通するかを述べる。

なお、本稿の依る調査を出発点にして、筆者が当初目指していたところは、不快感に関する意味の枠が新形式〈ウザイ〉によってどのように区別されなくなっているかを地域に特徴的な形式との関係で九州・山口方言の実態を明らかにすることであった。ただ、本章では、〈ウザイ〉に捕らわれず、上記の如く、地域に特徴的な形式を含め、地域差のあり様をまとめる。

重複するが、比較のため九州・山口各県で7項目をどのように区分したかを示す。

福岡県；【項目a・e・(c)／項目g／項目d・f・b】

佐賀県；【項目a・e・(c)／項目(g)／項目d・f・b】

長崎県；【項目e・a・g・(c)／項目d・f・b】

熊本県；【項目a・e・(c)／項目g／項目d・f・b】

大分県；【項目e・c／項目a・g／項目f・b・d】

宮崎県；【項目e・a／項目g／項目c／項目b・d・f】

鹿児島県；【項目e・a／項目(c)／項目b・d・f／項目g】

山口県；【項目e・a／項目g／項目(c)／項目d・f・b】

[91] 8県を通して項目b・d・fは常にまとまって一つの区分となり、他の項目とまとまることがない。

この場合、基盤となる形式は、〈キツイ〉〈ダルイ〉〈シンドイ〉〈ヨダキイ〉〈テソイ〉〈エライ〉である。しかし、〈シンドイ〉〈ヨダキイ〉〈テソイ〉は他の諸形式に比べると回答率が低く、中核は〈キツイ〉〈ダルイ〉及び〈エライ〉である。

確かに項目b〈立ち仕事による疲労感〉・項目d〈何もしたくないときの気持ち〉・項目f〈空腹に伴う身体的な不快感〉は、原因は異なるが、精神的な不快感でない点で、他の4項目と異質である。それを反映するかのようによこれらの項目で基盤となる形式は、多く他の4項目で使われることがない。

但し、中核でないとしたように、〈ヨダキイ〉〈テソイ〉は、例外的に他の区分にも見られる。しかし、これら3項目では回答率が低く、項目aや項目gでより高い回答率となる。

[92] 他の4項目では、「雨の日の夜に出掛けなければならなくなったとき」の気持ちという「面倒臭さ」が問題になる項目故、項目gの独立性が目立つ。

従って、本項目で基盤となる〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉は、他の項目では項目d〈何もしたくないときの気持ち〉で〈メンドイ〉が40%~50%前半の回答率を有する程度である。

このような中で項目gが項目e・a・cとまとまる長崎県、項目aとまとまる大分県は際立つ。

これは長崎県で〈ウザイ〉〈ヤゼイ〉、大分県で〈ヨダキイ〉という、新形式や地域に特徴的な形式の回答率が高いためである。

[93] 項目 a・e は、〈長雨のときの気持ち〉と〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉として、感覚性・直接性の有無はあるが、「鬱陶しさ」を表す点で共通する。

ただ、項目 e では〈ジャマ(ナ)〉という本項目専用の形式がほぼ全県で優勢であり、項目 a と項目 e が区別されない訳ではない。しかし、殆どの県で〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉の回答率が高い。

その中、大分県では両項目を別の区分とした。ともに〈ウツウシイ〉の回答率が高いが、項目 a で〈ヨダキイ〉の回答率も高いためである。ただ、この点については、今後質問文の見直しも含め、詳しい現地調査を行う必要がある。

[94] 項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉は、回答率の高い形式が存しないため、扱いが難しく、1項目だけで独立させたり、また他の項目とまとめながらも独立させるべきかと考えたりすることもあった。

これは、質問文が回答者によって異なる感情を想起させるなど、質問に問題があったためかもしれない。ただ、基本的には「鬱陶しさ」が問題になる項目で、まとまる場合には、福岡県など、肥筑域の如く項目 a・e と同じ区分になることが自然であろう。

その中、大分県の【項目 e・c/項目 a・g】という区分は、項目 a の問題と関係して特異なものである。

[95] 本稿で設定した7項目に基づいた場合、不快感に関する意味の枠と諸形式は、【項目 a・c・e/項目 g/項目 b・d・f】という3区分に共通語形・新形式【〈ウザイ〉〈ウツウシイ〉/〈メンドイ〉〈メンドウクサイ〉/〈キツイ〉〈ダルイ〉】が対応する枠組みを基本とするとまとめられる(出発点とした『分類語彙表』の形容語は、[項目 a・c = 〈うっとうしい〉・項目 e = 〈うるさい〉/項目 g = 〈面倒臭い〉/項目 b = 〈疲れる〉・項目 d = 〈おっくう〉・項目 f = 〈ひだるい〉])となる。2章 [21] 項参照)。

このような枠組みが地域に特徴的な形式の使われ方によって、県ごとの枠組みに変形したのであろう。従って、地域に特徴的な形式の回答率が高くない福岡県・佐賀県・熊本県では、上記と同一の3区分となる。

これら3県以外で項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉が独立する宮崎県・山口県も、本項目の基盤は〈ウツウシイ〉で、上記3県に比べて〈ウザイ〉の回答率が低いだけである。この点で〈ダルイ〉の回答率の高い鹿児島県は地域性が際立つ。

一方で、項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉が他の項目とまとまる原因には、地域に特徴的な形式の存在が大きい。長崎県では〈ヤゼイ〉、大分県では〈ヨダキイ〉が問題となる。特に長崎県では項目 a・c・e・g の基盤は〈ウザイ〉〈ヤゼイ〉という新形式である。

大分県は、項目 g とまとまる項目 a 〈長雨のときの気持ち〉に原因が求められる。特に両項目とも〈ヨダキイ〉の回答率の高いが、宮崎県の〈ヨダキイ〉・鹿児島県の〈テソイ〉の用法を考えると、大分県の〈ヨダキイ〉も項目 g の如き「面倒くささ」を表す用法が中心であろう。項目 a のよ

うな「一週間以上雨が降り続いたようなときに感じる」「鬱陶しさ」を表す用法は、周辺のなものとしてはあり得よう。しかし、項目gと同程度の回答率を有することが妥当な、中心的なものであるとの確証は得ていない（注(9)(10)参照）。今後早急な調査・考察が必要な項目・地域・形式である。

5. おわりに

[1] 本稿の第一の目的は、山県2006で示せなかった3調査の回答を別表の形で示すとともに、九州・山口各県での〈ウザイ〉の使われ方を報告することであった。

併せて、不快感に関する意味の枠に注目して、各項目における諸形式の使われ方について、項目ごと及び県ごとに検討し、それぞれ九州・山口各県の地域差のあり様を述べた。

[11] 本稿が依ったようなアンケート調査は、短時間に大量のデータを収集できる点を特徴とする。

このため、属性差に対応することばの違いを調査する際に有効である。本稿でも、有効回答者の偏りが存するものの、不快感を表す諸形式の使われ方について九州・山口8県における地域的な違いを問題とした。

即ち、41章では、7項目ごとに回答率の高い形式が九州・山口各県でどのように一致し、一致しないかを述べ、項目ごとの地域差のあり様がどのように異なるかをまとめた。42章では、7項目による不快感に関する意味の枠がどのような形式によって表現し分けられるかなどを通して、不快感に関する意味の枠と諸形式の関わり方を示し、九州・山口各県でこのような意味と形式の枠組みがどのように異なるかをまとめた。

これらの検討を通して、今後の本格的な調査に向け、問題となる項目・地域・形式は、大凡明らかにすることができたように思う。地域に特徴的で、注目すべき形式として、長崎県の〈ヤゼイ〉、大分県・宮崎県の〈ヨダキイ〉、鹿児島県の〈テソイ〉、山口県の〈エライ〉などを取り立てたが、特に〈ヤゼイ〉〈ヨダキイ〉については、世代差調査を含めた詳細な面接調査が必要である。

しかし、これらがすべての項目で常に高い回答率を示す訳ではない。全体的にはどの県でも共通した共通語形や新形式が高い回答率を有し、それらを中心とした枠組みとなっていた。その中で、まだ項目a・eを中心とするだけであるが、〈ウザイ〉の勢力は注目できる。

その意味で、九州・山口各県の若年層における不快感を表す諸形式の使われ方に関する地域差は、基盤においては特別大きいと言えない。〈ウザイ〉の他、〈ダルイ〉〈ヤゼイ〉など、3拍の濁音を有する形式によって不快感に関する意味の枠が取り払われ、また地域差が小さくなっていくのではなからうか。

[12] アンケート調査は、先の如き特徴が存する一方、データの質を中心に様々な問題を有する。

本調査の質問形式は、そのまま面接調査でも使えるものであるが、形式を文字化して選択肢として列挙していると、必要以上に選択される虞がある。この点への配慮に加え、面接調査で採用されるなぞなぞ式や共通語翻訳式での回答のされ方も勘案し、本稿では、回答率の高い形式を対象とした。

しかし、回答率の低い形式はすべて回答者のミスによって選択されたものと断ずることはできま

い。地域で衰退しつつある伝統的方言が回答されたのかもしれない。また地域で新しく生まれた新形式が選択され、また「その他」の言い方として記されることもあろう。

稿を閉じるに当たって、回答率が低いのが故に言及しなかった形式で、地域に特徴的で、注目すべきものについて述べる。

[2] 〈シャーシイ〉が福岡県・佐賀県・大分県で使われる。

回答率が20%を越えるのは、福岡県で項目 a・e、佐賀県で項目 e・g、大分県で項目 a・c・e・g である。

1980年代後半の博多方言において、〈シロシイ〉の意味や用法を拡大して使う世代（40代後半から60代前半）以降の、より若い世代がそれに対応する形式として〈シャーシイ〉を使うという報告がある（陣内1990）。その際、〈シャーシイ〉本来の「うるさい」「こうるさい」に加えて「うっとしい」「気持ちが悪い」「やっかいだ」など、〈シロシイ〉が持つ意味でも使うようになったという。

本調査の福岡県での使われ方は、「鬱陶しさ」を表す用法に限られる点でこの報告と一致する。しかし、佐賀県・大分県では項目 g の「面倒くささ」を表す用法へ広がっている。

なお、博多方言で〈シャーシイ〉に取って代わられた伝統的方言〈シロシイ〉は福岡県で7項目すべてで回答はされているが、5%を越えることはない（他に大分県・山口県で1・2項目各1名の回答）。

[3] 長崎県の〈ヤゼイ〉と関連する形式として〈ヤゼラシイ〉〈ヤグラシイ〉がある。

〈ヤゼラシイ〉は長崎県・熊本県、〈ヤグラシイ〉は佐賀県・長崎県に見られる。

〈ヤゼラシイ〉は長崎県で回答率が高く、また〈ヤゼイ〉の回答率が50%を越える項目 e・g では〈ヤゼラシイ〉の回答率も20%を越える（注⁸参照）。

熊本県では〈ヤゼラシイ〉は項目 e で20%を越える程度で、〈ヤゼイ〉も項目 a・e で10%を越えるに過ぎない。このように熊本県では回答率が低いのが、長崎県と異なって、〈ヤゼラシイ〉の方が〈ヤゼイ〉より回答率が高い。

長崎県・熊本県とも項目 a・e で〈ヤゼイ〉〈ヤゼラシイ〉の回答率が高い。しかし、項目 g では長崎県で両語形とも回答率が高いが、熊本県はいずれも回答率は0%である。^{注⁸}

熊本県では項目 g での〈ウザイ〉の回答率が低く、また対象とした8県の中で唯一〈メンドウクサイ〉という共通語形が諸形式の中で最も高い回答率を有していた（4章 [7] 項参照）。本県に存する「面倒くささ」を表す非共通語形の発達を抑制する要因は何であるか、今後の課題の一つである。

佐賀県は〈ヤグラシイ〉だけで、〈ヤゼイ〉〈ヤゼラシイ〉は見られない。この点からも〈ヤゼイ〉の原型が〈ヤゼラシイ〉であることが察せられる。なお、本県の〈ヤグラシイ〉の回答率は低く、20%を越える項目は存しない。^{注¹⁰}

[4] 山口県にはほぼ限られ、一定の回答率の見られる形式として〈タイギ(ナ)〉〈センナイ〉が存する。

いずれも一部の項目で選択肢としただけであるが（前者は項目eを除く6項目、後者は項目b・d・fの3項目）、回答率が20%を越えるのは、〈タイギ（ナ）〉で項目a・c・d・g、〈センナイ〉で項目f、特に項目gで〈タイギ（ナ）〉は30%を越える。^{注05}

本論では山口県における項目b・d・fでの〈エイ〉の回答率の高さを強調した。しかし、この両形式も同様の地域差を生み出すものとして、世代差調査では注目すべきである。

[5] 回答率が低いため、本論で殆ど言及することのなかった諸形式も、世代差調査を行い、各地域の実態を重層的に捉えていこうとする際には当然視野に入れてこよう。

なお、そのような今後の調査に向け、問題となる項目・地域・形式を明らかにすることも本稿の目的の一つであった。それに加え本稿で採用した質問も、具体的に記すことはなかったが、問題がない訳ではない。本稿で依った調査と同じ形式で県ごとの大学生に対する多人数調査も予定している。限られた紙面で解釈の揺れの少ない場面をいかに設定するか、緊急の課題である。

また本稿では《普段》の場面として「自宅で家族と話をするとき」で調査をした。しかし、回答者にとってそれがくつろいだ場面のすべてではない。「同世代の友達と話をするとき」の言い方を尋ね、更に紙面の制約のために〈ウザイ〉〈ダルイ〉に含めた〈ウゼー〉〈ダリー〉などを選択肢とすれば、不快感に関する意味の枠が一層取り払われ、地域差が更に小さい結果が得られるかもしれない。

最後に、本稿では、注を中心に辞典類の記述を示す程度で、各地域における記述的な研究は殆ど参照しなかった。勿論、問題となる形式については、各地の出身者に問い合わせることはした。しかし、体系だった調査でないため、論中その結果を記すことは殆どしなかった。ただ、本調査で得られた回答は、一部を除けば、細部はともかく、九州・山口各県における諸形式の分布や意味・用法のあり様と大枠において一致していたと判断する。

6. 図・別表の説明

図-1~8

九州・山口8県ごとに一定以上の回答率を有する形式を3分類してまとめたもの

1. 項目a~gは、4章[2]項に記した〈ウザイ〉の回答率の高い順に記した。
2. 「一定以上の回答率を有する形式」とは回答率40%以上のもので、次の如く3分類して、台形の上段にA類、中段にB類、下段にC類を配した。
 - A類 = 回答率70%以上の形式
 - B類 = 回答率50~69%の形式
 - C類 = 回答率40~49%の形式
3. ★印を付した項目は、有効回答数が10名以下であることを意味する。
4. 「φ」は、該当する類に所定の回答率を有する形式がないことを意味する。

別表—I～VII

調査1～3の項目a～gの回答を地域ごとに集計したもの

1. 有効回答者は、出身地によって福岡県内5地域と九州・山口8県に分け、それぞれの回答状況を示した。各地域名の下の数値は、各地域の有効回答者数である。
 - ・有効回答者とは、回答した者のうち《出身地とする都道府県に小学校・中学校・高等学校の在学期間（6歳～18歳）在住していた者》で、「回答に不備のない者」である。
 - ・福岡県内の不定者が存するため（注(1)参照）、福岡県内5地域の回答者数を合計しても福岡県全体の回答者数には足りない。
2. 不快感を表す形式は、代表的な語形を示した。実際は、下記の如き語形をも含むものである。
 - ・形容詞 = 〈ウザイ〉の如き基本形の他に、〈ウゼー〉〈ウジャー〉の如き訛形、〈ウザカ〉の如きカ語尾形を含む。
 - ・形容動詞 = 〈ナンギ(ナ)〉の如くナ形を基本形として示したが、〈ナンギダ〉〈ナンギヤ〉〈ナンギジャ〉〈ナンギナ〉などの他に、〈ナンギ〉の如き語幹形、〈ナンギイ〉〈ナンギカ〉の如き形容詞形を含む。すべての地域で回答されなかった形式も存するが、調査票に記した選択肢の言い方をすべて示す意図から省略せずに示した。
3. 各セルに該当形式の回答の実数と回答率を示した。回答率とは、()内の数値で、各地域の有効回答者数に占める各形式の回答数の割合（百分比・%）である。
4. 「その他」は、選択肢にない言い方を使う場合である。具体的に記された言い方は、次の如くである（県名の後の()内の数値は、回答の実数）。

項目a 〈長雨のときの気持ち〉

福岡県(4)；福岡市〈セガラシイ〉〈ジャカシイ・ワイヤー〉〈ダルイ〉・筑豊域〈ダルイ〉

佐賀県(1)〈イヤゴタル〉

長崎県(1)〈ヤゼラシカ〉

熊本県(2)〈ヤゼラシカ〉〈ヤゼラシイ・ヤゼラシカ〉

宮崎県(1)〈ダルイ〉

項目b 〈立ち仕事による疲労感〉

長崎県(1)〈ヤゼラシカ〉

項目c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉

福岡県(13)福岡市〈雨が降りソウデ、降ランヤツタ〉〈シャーラシイ〉〈キシヨイ〉〈ヌルイ〉〈陰気ヤネ〉・福岡域〈ドンヨリシトウ〉〈イヤヤネ〉〈キモチワルイ・ハッキリセン・ドヨントシトウネ〉〈メンドイ〉・北九州域〈キワドイ〉・筑豊域〈キチー・ネミー〉・筑後域〈スッキリセン〉〈嫌ナ感じ〉

佐賀県(2)〈気持チン悪カアー〉〈ハッキリセン天気ヤネ〉

- 長崎県（1）〈パットセン〉
熊本県（2）〈イヤラシイ〉〈ビミョー〉
鹿児島県（1）〈ハッキリシナイ・暗イ〉

項目d 〈何もしたくないときの気持ち〉

- 福岡県（5）福岡市〈気持チワリイ〉〈メンドラシカ〉〈ヤル気出ラン〉・福岡域〈モノウイ〉・筑豊域〈ムリ〉
佐賀県（1）〈ダライスツ〉
熊本県（1）〈メンドクナイ〉
大分県（1）〈セレレン〉
宮崎県（2）〈ヒンダリー〉〈ヒンダルイ〉
鹿児島県（1）〈ツカレル〉

項目e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉

- 福岡県（4）福岡市〈ムサイ〉・福岡域〈シャアラシイ〉・筑後域〈シャラシイ〉・県内不定〈ヤラシイ〉
熊本県（1）〈ヤジョロシカ〉
鹿児島県（2）〈ヤヅロシイ〉〈ヤヅロシカ〉

項目f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉

- 福岡県（6）福岡市〈カガデン〉〈ペコペコ〉・福岡域〈キモチ悪イ〉〈キモチワルイ〉〈タマラントッテ〉〈キモチワルイ〉
佐賀県（1）〈キモチガワルカ〉
熊本県（1）〈エギレタ〉
大分県（1）〈キモチワルイ〉

項目g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉

- 福岡県（3）福岡域〈シャアラシカー〉・北九州域〈メンドシイ〉〈メンドウシイ〉
鹿児島県（1）〈アンマサ〉
山口県（2）〈センナイ・セツナイ〉〈エライ〉

注

- (1) 九州・山口8県とは、福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・山口県である。これら以外に西日本の各府県を出身とする有効回答者が少なくない。しかし、上記8県以外の府県出身者は3調査すべてで有効回答者が10名に至らないため、対象としない。

福岡市以外の県内4地域は、次の如き市郡からなる（2006年12月末時点）。

福岡域 = 宗像市・福津市・古賀市・大野城市・春日市・筑紫野市・太宰府市・前原市・糟屋郡・筑紫郡・糸島郡

北九州域 = 北九州市・行橋市・豊前市・中間市・京都郡・築上郡・遠賀郡

筑豊域 = 直方市・飯塚市・嘉麻市・宮若市・田川市・嘉穂郡・鞍手郡・田川郡

筑後域 = 小郡市・朝倉市・久留米市・うきは市・八女市・筑後市・大川市・柳川市・大牟田市・朝倉郡・三井郡・三潞郡・八女郡・山門郡・三池郡

福岡県に《小学校・中学校・高等学校の在学期間在住》していても県内を転居した回答者が存する。

上記の5地域をまたぐ場合は「県内不定」として処理する。

- (2) 前稿の項目1～5と本稿の項目a～gの対応は、次の如くである。

項目1 → 項目a 〈長雨のときの気持ち〉

項目2 → 項目c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉

項目3 → 項目d 〈何もしたくないときの気持ち〉

項目4 → 項目e 〈前髪が目にはかるときの気持ち〉

項目5 → 項目g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉

前稿の記述をそのまま引用する場合を除き、前稿の内容でも項目に関する表記はすべてa～gの形に改めて示す。

- (3) 〈セカラシイ〉は、『日本方言大辞典』「せからしー」で、次の如く意味が記される。

① せきたてられるようで気ぜわしい。忙しい。また、こせこせしている。

② 騒々しくていらいらする。子供などが騒々しい。うるさい。

③ 煩わしくて嫌だ。めんどうくさい。

④ 恥ずかしい。きまりが悪い。

九州の分布地は、③は福岡県・佐賀県・長崎県に限られ、①②は他に熊本県・大分県（②のみ）・宮崎県・鹿児島県が加わるなど、九州のほぼ全県が示される（④は対馬のみ）。

本調査では項目bを除く6項目で〈セカラシイ〉を選択肢としたが、回答率が30%を超えるのは、佐賀県だけである。本県で回答率が最も高い項目g〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉は、辞典の③に当たる。

- (4) 福岡県各地域では〈ウザイ〉の方が〈ウザッタイ〉より回答率が常に高い。しかし、九州各県では〈ウザッタイ〉の方が回答率の高い項目がある（山県2006 4章 [21] 項参照）。

即ち、項目a〈長雨のときの気持ち〉において宮崎県で〈ウザイ〉と〈ウザッタイ〉の回答率が同じであったように、宮崎県以外に大分県・鹿児島県など、九州南東部の諸県で〈ウザッタイ〉の回答率の高さが目に付く。

福岡県以外は両形式とも回答率0%である項目b以外の6項目について、各県の〈ウザイ〉〈ウザッタイ〉の回答率（単位は%）を示すと、次の如くである（別表-I～VIIも参照のこと）。ただ、〈ウザッタイ〉の回答率の高いこれら3県は、有効回答者が共通して少ない（★印は10名以下）。これが有意な傾向と言えるか、今後の調査が必要である。

項目 a 〈長雨のときの気持ち〉

福岡県	〈ウザイ〉 64.8 ・ 〈ウザッターイ〉 25.8
佐賀県	〈ウザイ〉 55.0 ・ 〈ウザッターイ〉 35.0
長崎県	〈ウザイ〉 76.2 ・ 〈ウザッターイ〉 33.3
熊本県	〈ウザイ〉 76.9 ・ 〈ウザッターイ〉 23.1
★大分県	〈ウザイ〉 28.6 ・ 〈ウザッターイ〉 28.6
★宮崎県	〈ウザイ〉 50.0 ・ 〈ウザッターイ〉 50.0
★鹿児島県	〈ウザイ〉 50.0 ・ 〈ウザッターイ〉 33.3
山口県	〈ウザイ〉 58.3 ・ 〈ウザッターイ〉 33.3

項目 c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉

福岡県	〈ウザイ〉 32.7 ・ 〈ウザッターイ〉 11.0
佐賀県	〈ウザイ〉 35.1 ・ 〈ウザッターイ〉 13.5
長崎県	〈ウザイ〉 44.4 ・ 〈ウザッターイ〉 3.7
熊本県	〈ウザイ〉 35.5 ・ 〈ウザッターイ〉 19.4
大分県	〈ウザイ〉 46.2 ・ 〈ウザッターイ〉 23.1
★宮崎県	〈ウザイ〉 12.5 ・ 〈ウザッターイ〉 12.5
鹿児島県	〈ウザイ〉 20.8 ・ 〈ウザッターイ〉 4.2
山口県	〈ウザイ〉 23.5 ・ 〈ウザッターイ〉 17.6

項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉

福岡県	〈ウザイ〉 11.4 ・ 〈ウザッターイ〉 3.2
佐賀県	〈ウザイ〉 21.6 ・ 〈ウザッターイ〉 8.1
長崎県	〈ウザイ〉 22.2 ・ 〈ウザッターイ〉 0.0
熊本県	〈ウザイ〉 12.9 ・ 〈ウザッターイ〉 9.7
大分県	〈ウザイ〉 0.0 ・ 〈ウザッターイ〉 0.0
★宮崎県	〈ウザイ〉 0.0 ・ 〈ウザッターイ〉 12.5
鹿児島県	〈ウザイ〉 0.0 ・ 〈ウザッターイ〉 0.0
山口県	〈ウザイ〉 17.6 ・ 〈ウザッターイ〉 5.9

項目 e 〈前髪が目にはかるときの気持ち〉

福岡県	〈ウザイ〉 61.8 ・ 〈ウザッターイ〉 27.0
佐賀県	〈ウザイ〉 48.3 ・ 〈ウザッターイ〉 31.0
長崎県	〈ウザイ〉 89.5 ・ 〈ウザッターイ〉 26.3
熊本県	〈ウザイ〉 64.7 ・ 〈ウザッターイ〉 35.3
大分県	〈ウザイ〉 58.8 ・ 〈ウザッターイ〉 23.5
宮崎県	〈ウザイ〉 54.5 ・ 〈ウザッターイ〉 72.7
鹿児島県	〈ウザイ〉 70.6 ・ 〈ウザッターイ〉 29.4
山口県	〈ウザイ〉 70.6 ・ 〈ウザッターイ〉 47.1

項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉

福岡県	〈ウザイ〉	5.0	・	〈ウザッターイ〉	1.2
佐賀県	〈ウザイ〉	6.9	・	〈ウザッターイ〉	0.0
長崎県	〈ウザイ〉	15.8	・	〈ウザッターイ〉	0.0
熊本県	〈ウザイ〉	11.8	・	〈ウザッターイ〉	5.9
大分県	〈ウザイ〉	5.9	・	〈ウザッターイ〉	5.9
宮崎県	〈ウザイ〉	0.0	・	〈ウザッターイ〉	0.0
鹿児島県	〈ウザイ〉	0.0	・	〈ウザッターイ〉	0.0
山口県	〈ウザイ〉	5.9	・	〈ウザッターイ〉	5.9

項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉

福岡県	〈ウザイ〉	27.8	・	〈ウザッターイ〉	9.1
佐賀県	〈ウザイ〉	44.8	・	〈ウザッターイ〉	13.8
長崎県	〈ウザイ〉	63.2	・	〈ウザッターイ〉	10.5
熊本県	〈ウザイ〉	5.9	・	〈ウザッターイ〉	5.9
大分県	〈ウザイ〉	17.6	・	〈ウザッターイ〉	11.8
宮崎県	〈ウザイ〉	27.3	・	〈ウザッターイ〉	0.0
鹿児島県	〈ウザイ〉	0.0	・	〈ウザッターイ〉	5.9
山口県	〈ウザイ〉	29.4	・	〈ウザッターイ〉	0.0

(5) 〈セカラシイ〉については、4章 [31] 項や注(3)でも述べたが、佐賀県では、項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉が最も高く (44.8%)、項目 a (40.0%) ・ 項目 e (37.9%) と続く。

一方、筑後域では、本項目 e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉が最も高く (51.9%)、項目 a (45.7%) ・ 項目 g (40.7%) と続く。

微妙な差で判断しがたいところもあるが、項目 e ・ g の位置の違いから、中心的な用法が佐賀県は精神的な不快感を表す場合、筑後域は感覚に直接的な不快感を表す場合などの如き地域差があるのかもしれない。

(6) 『日本方言大辞典』に「ひだるい」は立項され、「①空腹だ。ひもじい。」の意味では、派生語も含め、鹿児島県各地が記されるだけである。

なお、本項目には選択肢として〈ヒモジイ〉も設け、福岡県・佐賀県で20%台、長崎県・熊本県・宮崎県で30%台の回答率を得ている。

共通語形として〈ヒダルイ〉〈ヒモジイ〉には古風な響きを覚える。〈ウザイ〉を多用する現代の若者にそぐわない気もするが、各地域で日常語として一定の勢力を有しているのであろう。

(7) 区分は、作業原則①に基づき A ・ B 類の形式を重視して行う。従って、50%以上の形式の存しない項目は () を付し、作業原則②によって49%以下の有力な形式を参考にして区分する。

また区分を【 】内に示す場合、a ~ g の並べ方は、図の序列 (= 〈ウザイ〉の回答率の高い順) による。

(8) 新形式だけあって『日本方言大辞典』には〈ヤゼイ〉は見られない。井上・鐘水2002では、「ヤゼカ」

の見出しで、「めんどくさい、けだるい。」の意味を記し、長崎県での使用が報告される（同 p.220）。

なお、〈ヤゼイ〉と〈ヤゼラシイ〉、更に〈ヤグラシイ〉は回答率が並行的なところがある。即ち、〈ヤゼイ〉が50%を越える項目 a・e・g では〈ヤゼラシイ〉〈ヤグラシイ〉は20%を越える。一方、〈ヤゼイ〉が20%台の項目 d・f では〈ヤゼラシイ〉〈ヤグラシイ〉は約4%と約10%である。

但し、項目 c 〈はっきりしない空模様のときの気持ち〉の〈ヤゼイ〉はほぼ50%であるが、〈ヤゼラシイ〉〈ヤグラシイ〉は10%以下と低い。或いは、項目 c の如き曖昧で、精神的な不快感を表す用法は、〈ヤゼイ〉という新形式で新たに獲得したものかもしれない。確かに『日本方言大辞典』に見られる〈ヤゼラシイ〉〈ヤグラシイ〉の項では「鬱陶しい」に類する意味は明確でない（注13参照）。

なお、最初の調査であったため、調査 1・項目 a では選択肢として〈ヤゼラシイ〉を設けなかった。本項目でも〈ヤゼイ〉は50%を越える回答率であるため、準備していれば、〈ヤゼラシイ〉も〈ヤグラシイ〉と同じ20%台の回答率を得ていたかもしれない。

ちなみに、6章・別表の説明・4項には、選択肢にない言い方で具体的に記されたものを示した。

項目 a では長崎県で1名、熊本県で2名が〈ヤゼラシイ〉を記している。項目 b では〈ヤゼイ〉〈ヤゼラシイ〉を選択肢としなかったが、長崎県で1名が〈ヤゼラシイ〉を記している。

- (9) 田松2002は、大分県における〈ヨダキイ〉の意味について、世代差・地域差のあり様を報告したものである（調査は、〈ヨダキイ〉を含む質問文39種を準備し、その文脈での使用・不使用を問う面接・アンケート形式）。

伝統的な使われ方の例となる最高齢の話者（80代の女性、大分郡出身・在住）は、8系統の意味（憂鬱・鬱陶しい・つらい・面倒・だるい・飽きる・疲れる・煩わしい）のうち「煩わしい」系以外すべてで〈ヨダキイ〉を「使う」と回答した由が報告される。

しかし、年齢が低くなるに連れ、ほぼすべての系統で「使う」の回答が減少し、使われる意味の範囲が狭まると言う。例えば、大分市出身の大学生の場合、3種以上の質問文を持つ5系統の意味における「使う」の回答率は、「面倒」系56%、「だるい」系43%、「つらい」系36%、「憂鬱」系32%、「鬱陶しい」系23%の如く、減少のあり様は一様でない。

話者の数は少なくなるが、中間の中年層（40代）の場合、「使う」の割合は、「面倒」「だるい」系で約60%であるが、「憂鬱」系は43%、「つらい」系は33%、「鬱陶しい」系は13%の如く、差が見られる。

即ち、現地調査においても「面倒」「だるい」系・「つらい」「憂鬱」系・「鬱陶しい」系で〈ヨダキイ〉の使われ方に違いがあることが分かる。

田松2002の質問項目と本稿の項目は必ずしも一致しない。しかし、「気の進まなさ」で共通する項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉・項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉は「面倒」系・「だるい」系で、ともに〈ヨダキイ〉の回答率は高い。特に「面倒」系の質問文(21)は「大雨の日の集金」で、項目 g とほぼ同一である。その「使う」の割合は、中年層で100%、大学生で69%と、「面倒」系全体の値より高い。

一方、田松が「鬱陶しい」系とする質問文(13)は、項目 e と同一の「目にかかる前髪」で、中年層で0%、大学生で9%の如く殆ど使われない。本調査でも項目 e の〈ヨダキイ〉の回答率は9.1%に過ぎない。

ただ、同じ「鬱陶しさ」を表すが、**項目 a**〈長雨のときの気持ち〉は90%近い回答率である。田松には長雨や空模様などに原因する「鬱陶しい」系の項目がないため、検証はできない。

一方で、質問文(33)は空腹のあまりの「だるさ」を問題とし、中年層で20%、大学生で9%と「使う」の割合は低い。しかし、**項目 f**〈空腹感に伴う身体的な不快感〉はほぼ同じ設定で47.1%と特別低くない。

このように田松と本調査は、大凡の傾向という点でも一致しない場合がある。従って、**項目 a**における〈ヨダキイ〉の回答率の高さについては、直接に検証できないが、田松による中年層以下の「鬱陶しい」系の回答状況に加え、有効回答者が10名以下であることなどを勘案すると、慎重に扱うべきかもしれない。

- (10) 『日本方言大辞典』「よだきー」の項で、大分県・宮崎県を分布地とする意味は「②大儀だ。おっくうだ。めんどうだ。」「③ものうい。つらい。」「④嫌いだ。」「⑤うるさい。」「⑦汚い。」である。

このうち⑤⑦以外は両県が記されるが、⑤は大分県だけ、⑦は宮崎県である。大分県だけの「うるさい」は音声的な不快感を中心に多義的であるが、**項目 e**〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉も表しうる。更に「うるさい」を足がかりに**項目 a**〈長雨のときの気持ち〉のような「鬱陶しさ」を表す用法へも拡大し、本項目での大分県と宮崎県の回答率の違いが生まれたのではないかとも考えられる。しかし、**項目 e**の〈ヨダキイ〉の回答率は、大分県17.6%・宮崎県9.1%の如く、ともに低い。

また橋口2004は、大隅（曾於郡・肝属郡）・諸県（小林市・東諸県郡・えびの市・都城市）を分布地する「ヨダキ」に「だるい。ものうい。おっくうである。大儀である。気乗りしない。」という意味を示す。

木部1996では「都城市独自語彙項目(1)」として〈ヨダキイ〉が扱われ、「疲れた、面倒くさい」という意味で100%近い「いう」という回答を得ている（同 p.9）。

以上、宮崎県を中心とする報告であるが、**項目 a**の如き「一週間降り続いた雨」に原因する精神的な「鬱陶しさ」を表す用法が中心的なものでないことが窺える。

- (11) 〈テソイ〉は、『日本方言大辞典』「たいそー【大層】」の派生語「てそ」が該当しよう。「③病気が重くてつらいさま。」で鹿児島県肝属郡、「④気の進まぬこと。おっくう。めんどう。また、そのさま。」で宮崎県東諸県郡が示される。

橋口2004では立項され、「テソ」「テソカ」「テソガ」「テソナ」などが見られる。「テソ」は東諸県郡で「億劫」「薩摩でテソカというのと同類語」と説明され、「テソカ」は「だるい。しんどい。きつい。大儀である。」などの意味で、薩摩の諸地域が示される（「テソガ」は「だるい。しんどい。」、「テソナ」は「大儀である。大儀な。」「危なっかしい。頼りない。」などの意味が示される）。

本調査の回答率は、**項目 d**〈何もしたくないときの気持ち〉・**項目 g**〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉という「気の進まなさ」を表す場合が約60%、**項目 b**〈立ち仕事による疲労感〉という身体的な不快感を表す場合が50%と、各辞典の記述に沿った状況である。逆に、〈ウザイ〉の回答率の高い、典型的な「鬱陶しさ」を表す**項目 a**・**e**で20%以下である点は、原義が保たれていることを示す。

- (12) 『日本方言大辞典』「えらい」では、「③骨が折れる。困難だ。苦痛などがひどい。苦しい。疲れる。」が該当し、分布地は広く、中部・近畿・中国・四国の各府県が記される。

花岡2002は、広島県大竹市の中年層を対象に疲労感を表す諸形式の使われ方を報告している。その中で、疲労感に関してであるが、〈エライ〉は「身体的な疲労」で「統制可能の意味枠を中心」（同 p.7）に使われると説明される。

本論で扱った項目b〈立ち仕事による疲労感〉や項目f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉は身体的なものであるが、項目d〈何もしたくないときの気持ち〉は身体的には何も問題がなく、「やる気・気力」の出なさで、むしろ気の進まなさが問題になる。この項目dの回答率は88.2%で、項目dと項目fの中間の値である。辞典の記述に該当する意味が見えず、新たに拡大して得た用法であろうか。

(13) 『日本方言大辞典』「ややくろしー」には、様々な意味で〈ヤグラシイ〉〈ヤゼラシイ〉が掲げられている。〈ヤグラ〜・ヤゼラ〜〉の形で九州を分布地とするものを列挙すると、次の如くである。

- ① めんどうだ。複雑だ。「やぐらしか」 佐賀県 「やぜらしか」 長崎県
- ④ いらだたしい。「やぐらしか・やぜらしか」 壱岐島
- ⑤ 騒々しい。うるさい。「やぐらしか」 佐賀県・長崎県 「やぜらしか」 長崎県・壱岐島・熊本県・鹿児島県
- ⑥ いやらしい。いとわしい。嫌だ。「やぐらし」 長崎県
- ⑩ 汚い。不潔だ。「やぐらし」 長崎県
- ⑫ 身体がかゆい。「やぐらしか」 壱岐島

本調査でも、佐賀県は〈ヤグラシイ〉、長崎県は〈ヤグラシイ〉〈ヤゼラシイ〉、熊本県は〈ヤゼラシイ〉だけであり、この分布地の記述と一致する。

形式的には、他に「やぜくるしい」「やじらしい」「やぜろしい」「やぜくろしい」「やごらしい」などが見られる。それらも併せると、佐賀県・長崎県の他、鹿児島県が主要な分布地で、熊本県は⑤「やぜらしか」の天草郡だけである。特に熊本県に①「めんどうだ」が見られない点は、本稿の結果と一致する。

なお、6章・別表の説明・4項の「その他」の記述として、項目e〈前髪が目にかかるときの気持ち〉において熊本県で〈ヤジョロシカ〉、鹿児島県で〈ヤゾロシイ〉〈ヤゾロシカ〉が記される。

(14) 佐賀県も〈ヤグラシイ〉の使用に関して、地域差がある。

村上2006は、本県鹿児島市出身である自身の内省で〈ヤグラシイ〉の意味・用法を記述したものである。当地では老年層から若年層まで広く使われ、若年層における意味は、次の如き4タイプにまとめられるという（同 p.8）。

- ① 聴覚で受けとり、強かったり多かったりする音に対する「うるさい」
- ② 視覚や触覚で受けとり、邪魔ですっきりしないものに対する「うっとうしい」
- ③ 度を越した表現・行為に対する精神的に感じる「やかましい」
- ④ 面倒なものに対する「煩わしい」「面倒くさい」

この意味に関する説明は、『日本方言大辞典』で佐賀県の〈ヤグラシイ〉の意味される「①めんどうだ。複雑だ。」「⑤騒々しい。うるさい。」を覆う（注13参照）。

本調査で佐賀県の〈ヤグラシイ〉の回答率は高くないが、10%以上は項目c・d・e・gで、特に項目d〈何もしたくないときの気持ち〉や項目e〈前髪が目にかかるときの気持ち〉は約20%となる。こ

の項目dについては、村上2006に報告がないが、筆者の問い合わせに対して使えるとの回答を得た。本項目は長崎県では3.7%と回答されないに等しく、佐賀県に特徴的な用法と言えるかもしれない。

なお、村上の言によると、鹿島方言では、中高年層は〈ヤグラシイ〉の他に〈セカラシイ〉も使うが、若年層は〈ヤグラシイ〉しか使わないという。その際、中高年層の〈ヤグラシイ〉は上記の意味①②という感覚に直接関わる不快感、〈セカラシイ〉は意味③④という精神的な不快感に対して使われるようである。その意味で、鹿島方言の若年層は、形式を〈ヤグラシイ〉に一本化したことに伴い、感覚的なものに加え、精神的なものをも表すよう、用法を拡大させている。

但し、みやき方言など、佐賀県も他の地域では〈ヤグラシイ〉と〈セカラシイ〉の関係が異なることを確認している。

(15) 〈タイギ(ナ)〉〈センナイ〉について、『日本方言大辞典』の記述を中心に補足する。

この場合、3調査で有効回答者が5～8名であるため、対象外とした広島県の回答も参考のために記す。

〈タイギ(ナ)〉は、『日本方言大辞典』に「たいぎー」として示され、「おっくうだ。めんどうだ。つらい。体がだるい。」という意味で、広島県・山口県・香川県・愛媛県が分布地とされる。

中国・四国に限られることを物語って、項目a・c以外では福岡県で(項目gでは佐賀県も)1名または3名に例外的に回答されるだけで、ほぼ山口県に限られる。ただ、広島県ではすべての項目で山口県より回答率が高く、項目d・gでは全員に選択され、回答率100%である。

花岡2002で〈タイギ(ナ)〉は設定された意味枠すべてで使われるところから「身体精神に関わらず、疲労全体」(同 p.7)で使われる形式とする。本調査で「疲労感」を問題としたのは項目b〈立ち仕事による疲労感〉だけである。しかし、項目a・c・d・gで20%を越える回答率から、広く不快感を表す形式として使われていることが分かる。特に項目gの「面倒くささ」を表す用法は、上記4項目の中で最も高い回答率を示し、辞典の記述からも中心的なものと言える。

〈センナイ〉は、『日本方言大辞典』「せんない」のうち「③つらい。苦しい。また、やるせない。情けない。」が該当する。分布地は島根県・広島県・山口県が示される。

項目b・d・fで選択肢としたが、山口県以外では、項目bで福岡県、項目fで広島県でそれぞれ1名に回答されるだけである。ただ、山口県で20%を越える項目f〈空腹感に伴う身体的な不快感〉でも5名・29.4%に過ぎない。

花岡2002は、〈センナイ〉について「統制不能・可能に関わらず、精神的な疲労感」(同 p.7)専用であると報告する。この点に関して本調査では身体的な不快感を表す項目でしか選択肢としなかったため、確認できない。

ただ、6章・別表の説明・4項の「その他」の記述で、項目g〈雨夜の出会いのときの気持ち〉において山口県で1名が〈センナイ・セツナイ〉と記していた。選択肢とすれば、より多くの回答を得られたかもしれない。

◇ 参考文献及び引用文献

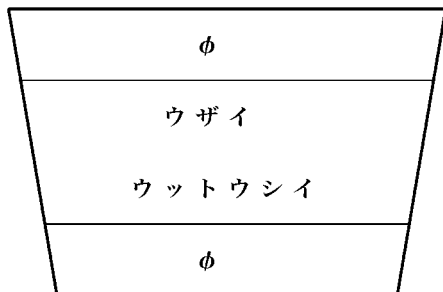
- 井上史雄・鎌水兼貴2002 『辞典〈新しい日本語〉』（東洋書林）
- 木部暢子1996 『鹿児島市とその周辺地域における地域共通語の実態とその教育に関する研究』（科研費報告書）
- 国語国立研究所2004 『分類語彙表・増補改訂版』（大日本図書）
- 真田信治1998 『九州におけるネオ方言の実態』（科研費報告書）
- 尚学図書1989 『日本方言大辞典 全3巻』（小学館）
- 陣内正敬1990 「語の意味・用法のゆれと意味変化 —博多方言「しろしい」の場合—」『国語学』第160集
- 田松未幸2002 『大分方言における感覚・感情表現の研究』（福岡大学人文学部卒業論文）
- 永瀬治郎2002 「『若者言葉』の方言学」『21世紀の方言学』（国書刊行会）
- 橋口 満2004 『鹿児島方言大辞典 全2巻』（高城書房）
- 花岡健吾2002 「広島県大竹市方言における疲労感を表す形容語彙」『国文学攷』第175号
- 村上直美2006 『鹿島方言の研究』（福岡大学人文学部卒業論文）
- 山口 浩2006 「福岡県の若年層に見られる不快感を表す形容語 —〈ウザイ〉を中心に—」『福岡大学日本語日本文学』第16号

【付記】 論中に記した永井先生・佐野先生の他に本稿をなすに当たっては、意味・用法などの確認のため、多くの方にお世話になった。いちいちお名前は記さないが、このような形で触れることで謝辞としたい。

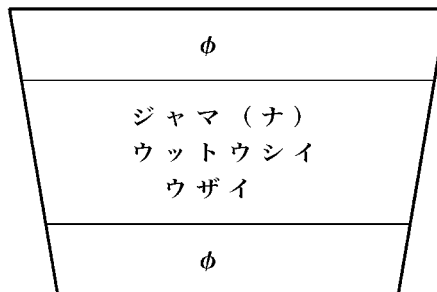
【最終稿 2007年1月22日】

図 — 1 福岡県

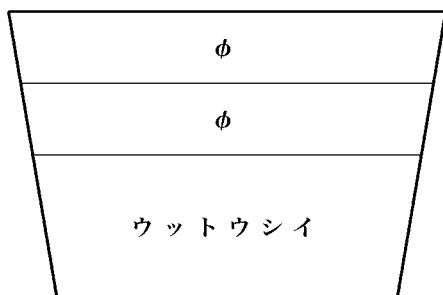
項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



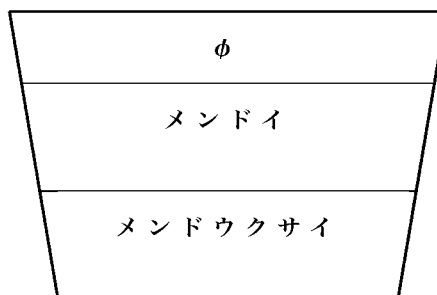
項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉



項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



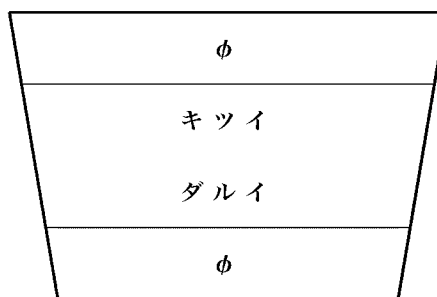
項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉



項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉

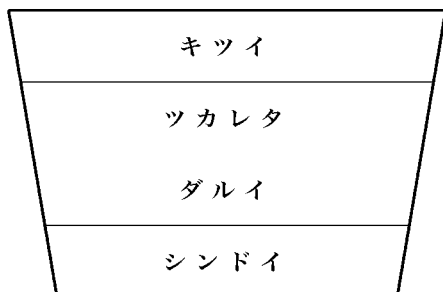


図 — 2 佐賀県

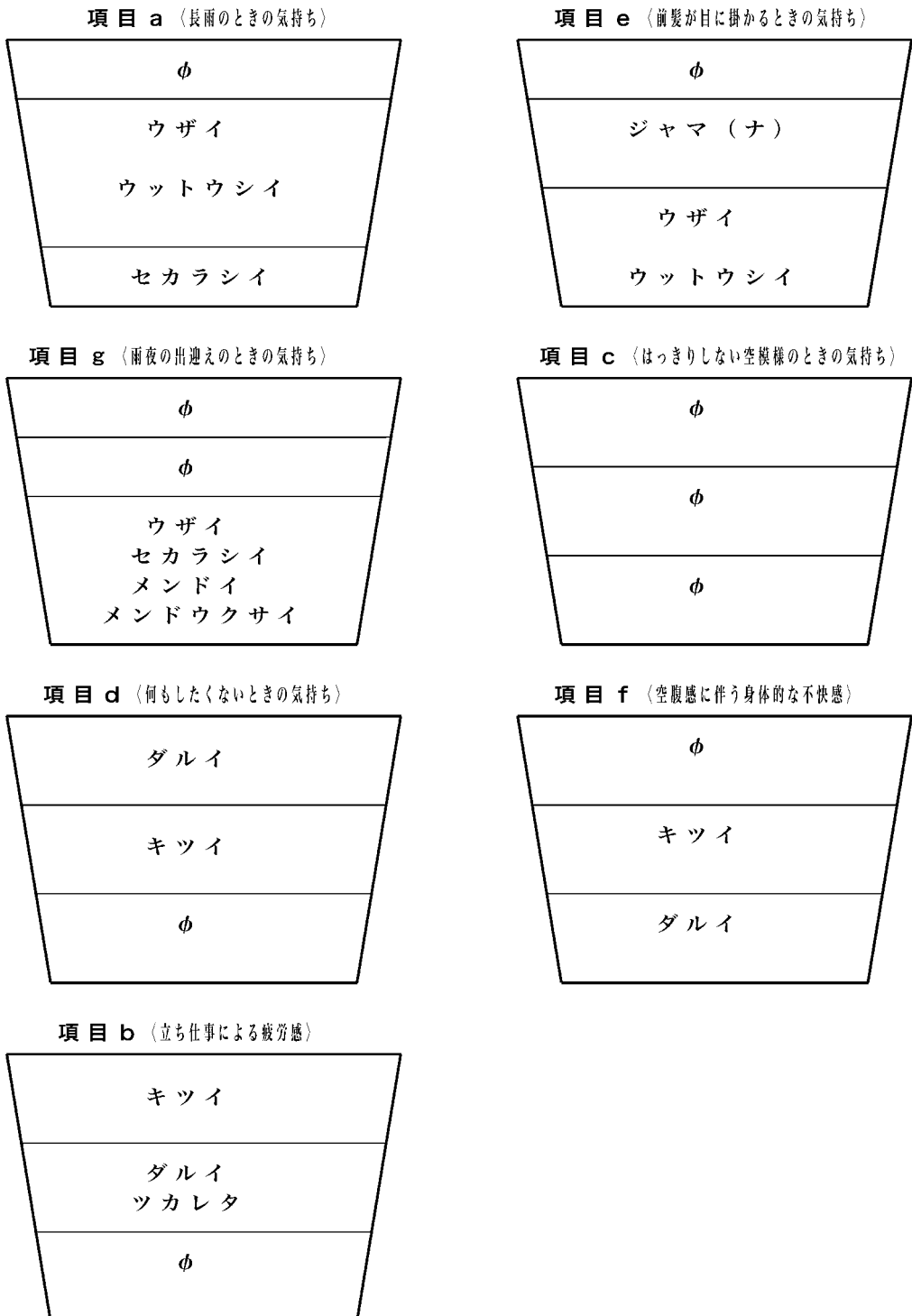
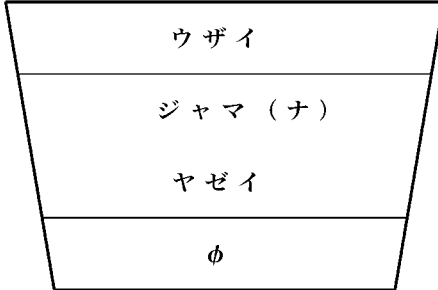


図 — 3 長崎県

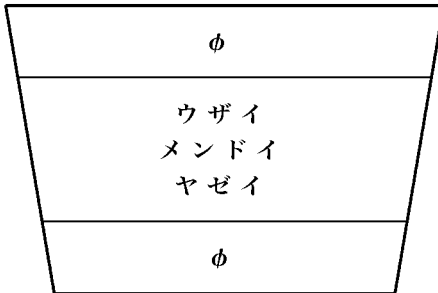
項目 e 〈前髪が目にかかるときの気持ち〉



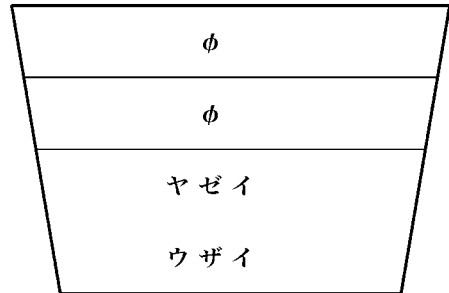
項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



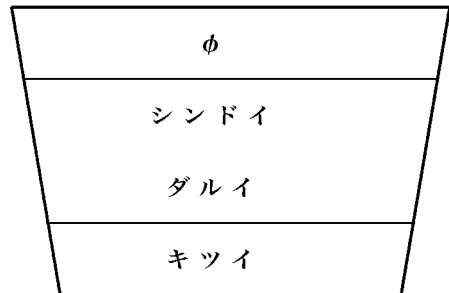
項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉



項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉

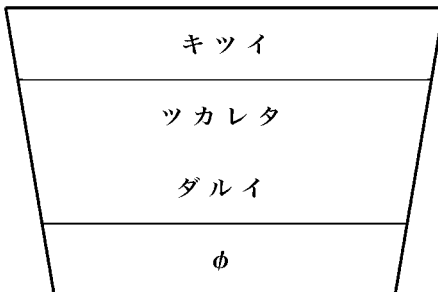
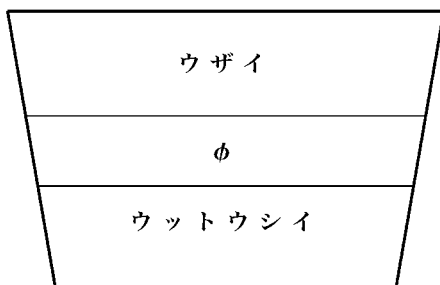
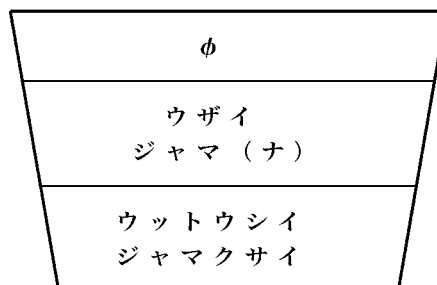


図 — 4 熊 本 県

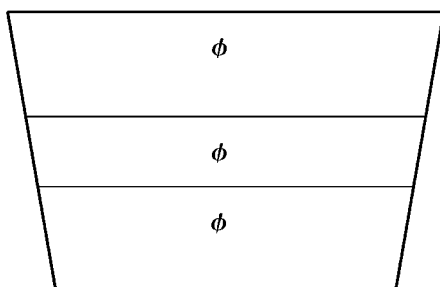
項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



項目 e 〈前髪が日に掛かるときの気持ち〉



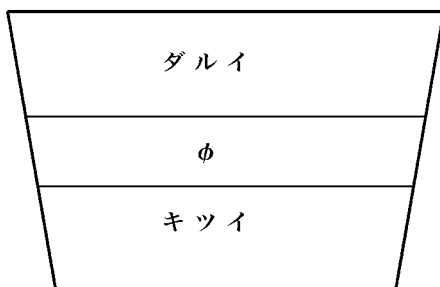
項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



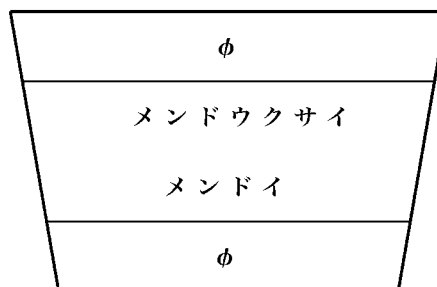
項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉



項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉

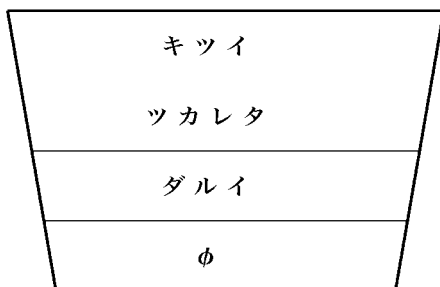
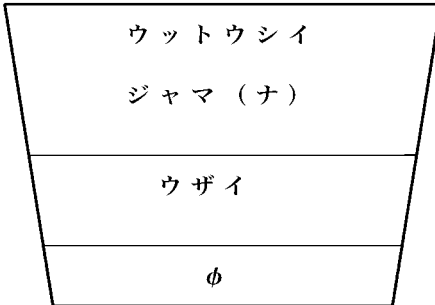
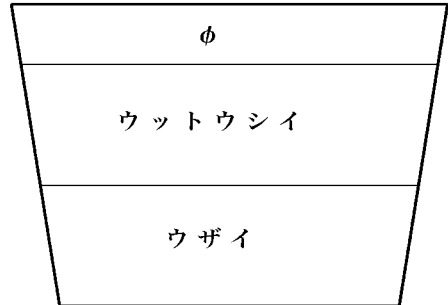


図 — 5 大分県

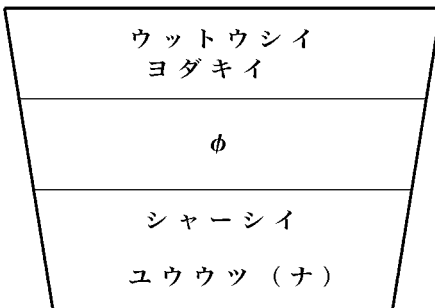
項目 e 〈前髪が目にかかるときの気持ち〉



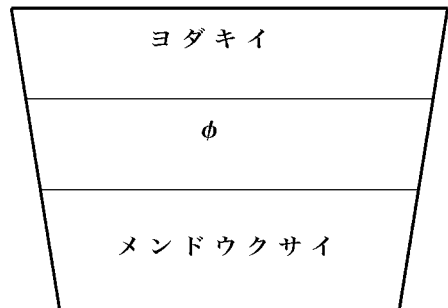
項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



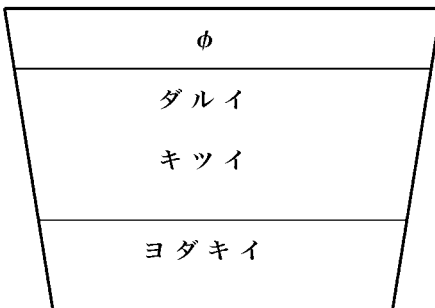
★ 項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉



★ 項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉

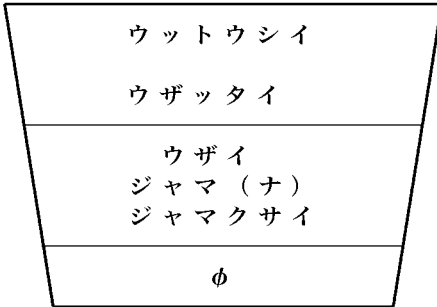


項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉

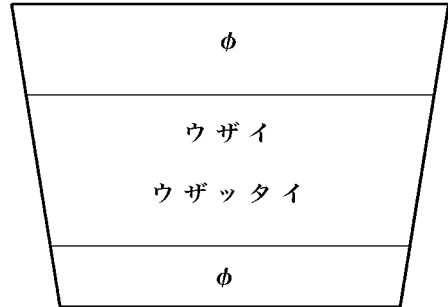


図一六 宮崎県

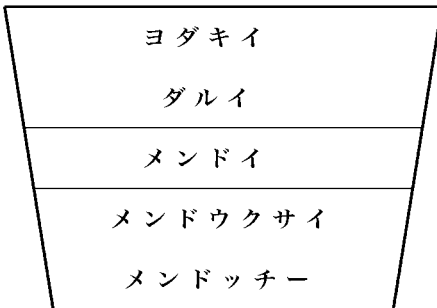
項目 e 〈前髪が目に掛かるときの気持ち〉



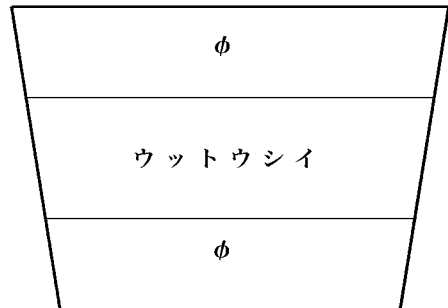
★項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



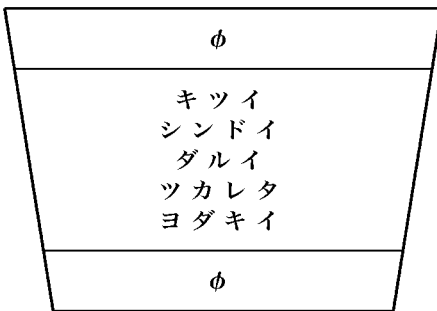
項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



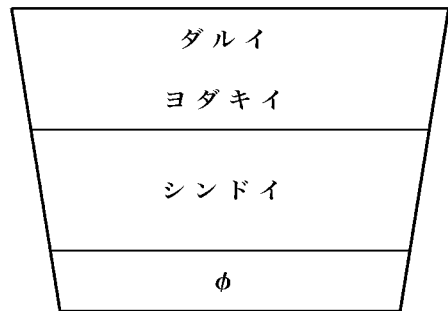
★項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



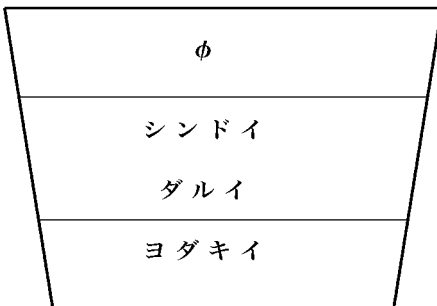
★項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉



★項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉

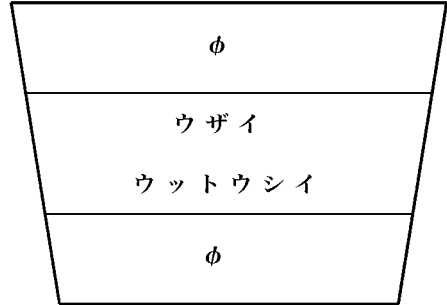


図一七 鹿児島県

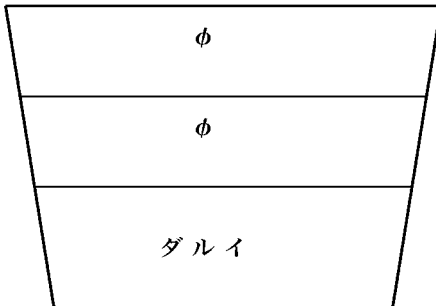
項目 e 〈前髪が目にかかるときの気持ち〉



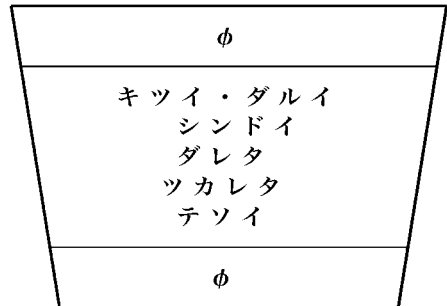
★項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



★項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉



項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉



項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉

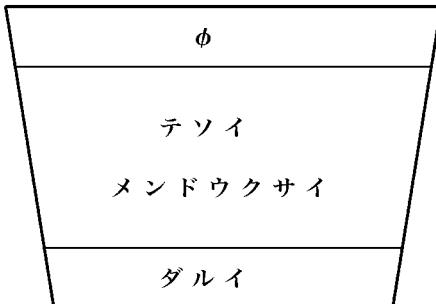
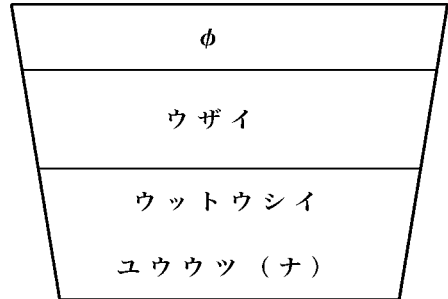


図 — 8 山口県

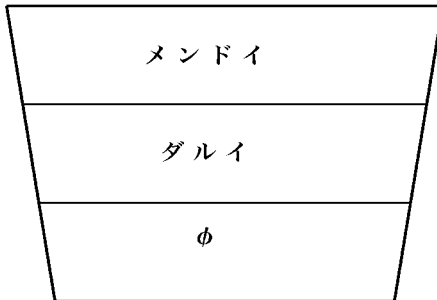
項目 e 〈前髪が目にかかるときの気持ち〉



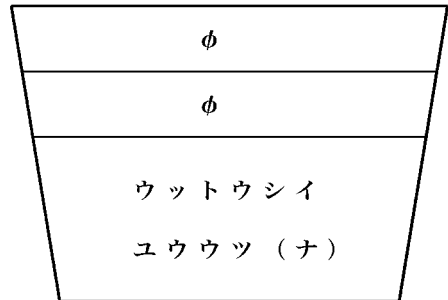
項目 a 〈長雨のときの気持ち〉



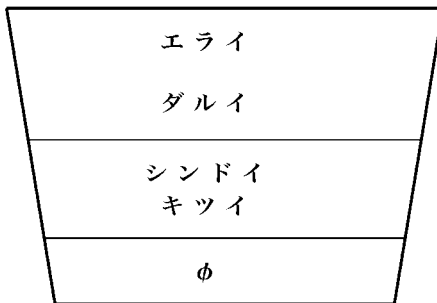
項目 g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉



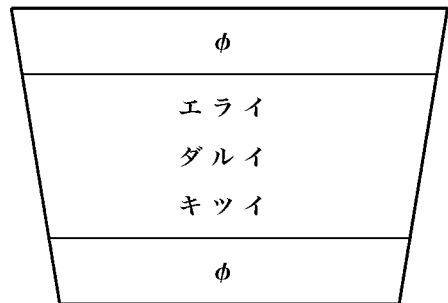
項目 c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉



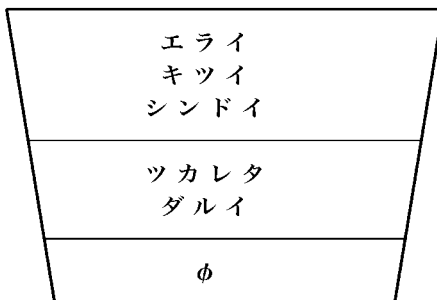
項目 d 〈何もしたくないときの気持ち〉



項目 f 〈空腹に伴う身体的な不快感〉



項目 b 〈立ち仕事による疲労感〉



別表—I 項目a 〈長雨のときの気持ち〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	71	57	28	13	35	213	20	21	13	7	6	6	12
1. ウザイ	49 (69.0)	39 (68.4)	17 (60.7)	8 (61.5)	18 (51.4)	138 (64.8)	11 (55.0)	16 (76.2)	10 (76.9)	2 (28.6)	3 (50.0)	3 (50.0)	7 (58.3)
2. ウザッタイ	19 (26.8)	14 (24.6)	10 (35.7)	3 (23.1)	5 (14.3)	55 (25.8)	7 (35.0)	7 (33.3)	3 (23.1)	2 (28.6)	3 (50.0)	2 (33.3)	4 (33.3)
3. ウザッタラシイ	2 (2.8)	4 (7.0)	1 (3.6)	2 (15.4)	2 (5.7)	11 (5.2)	2 (10.0)	1 (4.8)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. ウジャラシイ	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)
5. ウットイ	2 (2.8)	2 (3.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)
6. ウットウシイ	47 (66.2)	36 (63.2)	22 (78.6)	10 (76.9)	17 (48.6)	138 (64.8)	11 (55.0)	11 (52.4)	6 (46.2)	6 (85.7)	2 (33.3)	3 (50.0)	5 (41.7)
7. シカラシイ	0 (0.0)	4 (7.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (34.3)	17 (8.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
8. シャーシイ	21 (29.6)	24 (42.1)	5 (17.9)	3 (23.1)	11 (31.4)	65 (30.5)	3 (15.0)	1 (4.8)	1 (7.7)	3 (42.9)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (8.3)
9. シャカラシイ	1 (1.4)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.9)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. シルシイ	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.6)	4 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11. シロシイ	3 (4.2)	2 (3.5)	0 (0.0)	2 (15.4)	1 (2.9)	10 (4.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. セカラシイ	14 (19.7)	6 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (45.7)	37 (17.4)	8 (40.0)	6 (28.6)	2 (15.4)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)
13. タイギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)
14. テソイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)
15. ナンギ(ナ)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)
16. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.0)	5 (23.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
17. ヤジラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
18. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (52.4)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)
19. ヤゼロシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
20. ユウツ(ナ)	15 (21.1)	11 (19.3)	8 (28.6)	5 (38.5)	4 (11.4)	45 (21.1)	0 (0.0)	3 (14.3)	1 (7.7)	3 (42.9)	1 (16.7)	0 (0.0)	5 (41.7)
21. ヨダキイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (85.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
22. その他	3	0	0	1	0	4	1	1	2	0	1	0	0

別表—Ⅱ 項目b 〈立ち仕事による疲労感〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	71	57	28	13	35	213	20	21	13	7	6	6	12
1. ウザイ	1 (1.4)	2 (3.5)	1 (3.6)	1 (7.7)	0 (0.0)	5 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. ウザツタイ	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	2 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
3. エライ	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	2 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	12 (100)
4. カッターイ	10 (14.1)	9 (15.8)	8 (28.6)	2 (15.4)	1 (2.9)	30 (14.1)	1 (5.0)	3 (14.3)	2 (15.4)	1 (14.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (8.3)
5. キツイ	56 (78.9)	55 (96.5)	24 (85.7)	13 (100)	29 (82.9)	185 (86.9)	19 (95.0)	19 (90.5)	12 (92.3)	6 (85.7)	4 (66.7)	4 (66.7)	10 (83.3)
6. クタビレタ	26 (36.6)	13 (22.8)	13 (46.4)	4 (30.8)	8 (22.9)	65 (30.5)	5 (25.0)	3 (14.3)	5 (38.5)	3 (42.9)	1 (16.7)	1 (16.7)	3 (25.0)
7. シロシイ	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
8. シンドイ	41 (57.7)	33 (57.9)	14 (50.0)	6 (46.2)	7 (20.0)	105 (49.3)	7 (35.0)	6 (28.6)	5 (38.5)	3 (42.9)	4 (66.7)	3 (50.0)	10 (83.3)
9. センナイ	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)
10. タイギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)
11. ダラシイ	2 (2.8)	3 (5.3)	2 (7.1)	0 (0.0)	1 (2.9)	8 (3.8)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)
12. タルイ	2 (2.8)	2 (3.5)	1 (3.6)	2 (15.4)	0 (0.0)	7 (3.3)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
13. ダルイ	45 (63.4)	42 (73.7)	15 (53.6)	7 (53.8)	18 (51.4)	134 (62.9)	13 (65.0)	11 (52.4)	8 (61.5)	6 (85.7)	4 (66.7)	4 (66.7)	6 (50.0)
14. ダレタ	2 (2.8)	1 (1.8)	1 (3.6)	0 (0.0)	1 (2.9)	5 (2.3)	0 (0.0)	2 (9.5)	2 (15.4)	1 (14.3)	2 (33.3)	3 (50.0)	1 (8.3)
15. ツカレタ	54 (76.1)	39 (68.4)	15 (53.6)	9 (69.2)	17 (48.6)	138 (64.8)	11 (55.0)	14 (66.7)	10 (76.9)	6 (85.7)	4 (66.7)	3 (50.0)	7 (58.3)
16. テソイ	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	0 (0.0)
17. ナエタ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
18. ナンギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)
19. ホネノオレタ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20. ヨダキイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (42.9)	3 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
21. その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

別表—Ⅲ 項目c 〈はっきりしない空模様ときの気持ち〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	87	79	31	23	38	281	37	27	31	13	8	24	17
1. ウザイ	32 (36.8)	27 (34.2)	9 (29.0)	11 (47.8)	9 (23.7)	92 (32.7)	13 (35.1)	12 (44.4)	11 (35.5)	6 (46.2)	1 (12.5)	5 (20.8)	4 (23.5)
2. ウザッタイ	11 (12.6)	5 (6.3)	2 (6.5)	6 (26.1)	4 (10.5)	31 (11.0)	5 (13.5)	1 (3.7)	6 (19.4)	3 (23.1)	1 (12.5)	1 (4.2)	3 (17.6)
3. ウザッタラシイ	1 (1.1)	2 (2.5)	0 (0.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	6 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.7)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)
4. ウツトイ	1 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
5. ウツトウシイ	37 (42.5)	29 (36.7)	14 (45.2)	12 (52.2)	16 (42.1)	118 (42.0)	10 (27.0)	10 (37.0)	11 (35.5)	9 (69.2)	4 (50.0)	6 (25.0)	8 (47.1)
6. オモクルシイ	27 (31.0)	23 (29.1)	6 (19.4)	9 (39.1)	10 (26.3)	81 (28.8)	8 (21.6)	2 (7.4)	10 (32.3)	1 (7.7)	0 (0.0)	5 (20.8)	4 (23.5)
7. オモタイ オモイ	19 (21.8)	13 (16.5)	1 (3.2)	6 (26.1)	3 (7.9)	45 (16.0)	5 (13.5)	1 (3.7)	10 (32.3)	2 (15.4)	0 (0.0)	4 (16.7)	1 (5.9)
8. カツタルイ	8 (9.2)	8 (10.1)	2 (6.5)	4 (17.4)	4 (10.5)	27 (9.6)	4 (10.8)	1 (3.7)	4 (12.9)	1 (7.7)	2 (25.0)	1 (4.2)	3 (17.6)
9. シカラシイ	1 (1.1)	3 (3.8)	0 (0.0)	1 (4.3)	9 (23.7)	14 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. シャーシイ	8 (9.2)	15 (19.0)	0 (0.0)	6 (26.1)	9 (23.7)	38 (13.5)	5 (13.5)	1 (3.7)	0 (0.0)	4 (30.8)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
11. シルシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)	1 (4.3)	4 (10.5)	6 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. シロシイ	3 (3.4)	5 (6.3)	0 (0.0)	2 (8.7)	0 (0.0)	10 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)
13. セカラシイ	4 (4.6)	5 (6.3)	0 (0.0)	1 (4.3)	12 (31.6)	22 (7.8)	12 (32.4)	2 (7.4)	7 (22.6)	0 (0.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
14. タイギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)
15. タルイ	1 (1.1)	3 (3.8)	2 (6.5)	2 (8.7)	1 (2.6)	9 (3.2)	0 (0.0)	1 (3.7)	3 (9.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
16. ダルイ	20 (23.0)	28 (35.4)	8 (25.8)	9 (39.1)	9 (23.7)	78 (27.8)	10 (27.0)	8 (29.6)	10 (32.3)	3 (23.1)	2 (25.0)	10 (41.7)	3 (17.6)
17. テソイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (29.2)	0 (0.0)
18. ナンギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)
19. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (13.5)	2 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (48.1)	3 (9.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)
21. ヤゼラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	4 (12.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)
22. ユウツ(ナ)	35 (40.2)	21 (26.6)	7 (22.6)	10 (43.5)	5 (13.2)	84 (29.9)	8 (21.6)	9 (33.3)	10 (32.3)	4 (30.8)	3 (37.5)	5 (20.8)	7 (41.2)
23. ヨダキイ	2 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)	5 (38.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
24. その他	5	4	1	1	2	13	2	1	2	0	0	1	0

別表—Ⅳ 項目d 〈何もしたくないときの気持ち〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	87	79	31	23	38	281	37	27	31	13	8	24	17
1. ウザイ	9 (10.3)	10 (12.7)	2 (6.5)	7 (30.4)	4 (10.5)	32 (11.4)	8 (21.6)	6 (22.2)	4 (12.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)
2. ウザッタイ	2 (2.3)	2 (2.5)	1 (3.2)	3 (13.0)	1 (2.6)	9 (3.2)	3 (8.1)	0 (0.0)	3 (9.7)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (5.9)
3. ウザッタラシイ	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. エライ	2 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	3 (1.1)	2 (5.4)	0 (0.0)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (88.2)
5. オックウ(ナ)	14 (16.1)	9 (11.4)	1 (3.2)	1 (4.3)	1 (2.6)	33 (11.7)	1 (2.7)	1 (3.7)	5 (16.1)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (35.3)
6. カッターイ	16 (18.4)	17 (21.5)	8 (25.8)	8 (34.8)	5 (13.2)	57 (20.3)	7 (18.9)	4 (14.8)	4 (12.9)	4 (30.8)	2 (25.0)	2 (8.3)	4 (23.5)
7. キツイ	59 (67.8)	54 (68.4)	16 (51.6)	17 (73.9)	27 (71.1)	184 (65.5)	25 (67.6)	16 (59.3)	25 (80.6)	10 (76.9)	3 (37.5)	8 (33.3)	9 (52.9)
8. ケダルイ	8 (9.2)	7 (8.9)	2 (6.5)	2 (8.7)	1 (2.6)	24 (8.5)	1 (2.7)	1 (3.7)	4 (12.9)	1 (7.7)	1 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)
9. シカラシイ	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (4.3)	5 (13.2)	7 (2.5)	2 (5.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. シャーシイ	4 (4.6)	5 (6.3)	0 (0.0)	4 (17.4)	7 (18.4)	20 (7.1)	4 (10.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11. シルシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	1 (2.6)	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. シロシイ	3 (3.4)	2 (2.5)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	6 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
13. シンドイ	33 (37.9)	24 (30.4)	9 (29.0)	9 (39.1)	10 (26.3)	91 (32.4)	12 (32.4)	6 (22.2)	12 (38.7)	6 (46.2)	4 (50.0)	8 (33.3)	10 (58.8)
14. セカラシイ	1 (1.1)	5 (6.3)	0 (0.0)	1 (4.3)	7 (18.4)	14 (5.0)	5 (13.5)	0 (0.0)	2 (6.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
15. センナイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)
16. タイギ(ナ)	1 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)
17. ダラシイ	2 (2.3)	2 (2.5)	4 (12.9)	1 (4.3)	1 (2.6)	10 (3.6)	0 (0.0)	1 (3.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)
18. タルイ	5 (5.7)	6 (7.6)	3 (9.7)	3 (13.0)	3 (7.9)	21 (7.5)	0 (0.0)	3 (11.1)	3 (9.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
19. ダルイ	62 (71.3)	61 (77.2)	26 (83.9)	19 (82.6)	29 (76.3)	211 (75.1)	26 (70.3)	21 (77.8)	21 (67.7)	11 (84.6)	7 (87.5)	21 (87.5)	13 (76.5)
20. テソイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (58.3)	0 (0.0)
21. ナンギ(ナ)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	2 (8.3)	2 (11.8)
22. ヒダルイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.6)	1 (0.4)	2 (5.4)	0 (0.0)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
23. メンドイ	41 (47.1)	39 (49.4)	18 (58.1)	12 (52.2)	16 (42.1)	135 (48.0)	12 (32.4)	12 (44.4)	13 (41.9)	7 (53.8)	3 (37.5)	10 (41.7)	5 (29.4)
24. メンドウ(ナ)	9 (10.3)	12 (15.2)	3 (9.7)	4 (17.4)	5 (13.2)	35 (12.5)	9 (24.3)	1 (3.7)	8 (25.8)	1 (7.7)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)
25. メンドウクサイ	28 (32.2)	22 (27.8)	12 (38.7)	10 (43.5)	9 (23.7)	85 (30.2)	8 (21.6)	9 (33.3)	10 (32.3)	4 (30.8)	2 (25.0)	4 (16.7)	2 (11.8)
26. メンドッチー	12 (13.8)	10 (12.7)	5 (16.1)	3 (13.0)	5 (13.2)	36 (12.8)	1 (2.7)	2 (7.4)	5 (16.1)	4 (30.8)	2 (25.0)	1 (4.2)	2 (11.8)
27. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (18.9)	1 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
28. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (25.9)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
29. ヤゼラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
30. ヨダキイ	1 (1.1)	1 (1.3)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.5)	8 (61.5)	6 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
31. その他	3	1	0	1	0	5	1	0	1	1	2	1	0

別表—V 項目e 〈前髪が目には掛かるときの気持ち〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	75	64	28	24	27	241	29	19	17	17	11	17	17
1. ウザイ	49 (65.3)	37 (57.8)	23 (82.1)	13 (54.2)	17 (63.0)	149 (61.8)	14 (48.3)	17 (89.5)	11 (64.7)	10 (58.8)	6 (54.5)	12 (70.6)	12 (70.6)
2. ウザッタイ	24 (32.0)	17 (26.6)	8 (28.6)	6 (25.0)	8 (29.6)	65 (27.0)	9 (31.0)	5 (26.3)	6 (35.3)	4 (23.5)	8 (72.7)	5 (29.4)	8 (47.1)
3. ウザッタラシイ	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (3.6)	2 (8.3)	2 (7.4)	6 (2.5)	3 (10.3)	1 (5.3)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. ウットイ	1 (1.3)	6 (9.4)	0 (0.0)	1 (4.2)	1 (3.7)	10 (4.1)	1 (3.4)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	3 (17.6)
5. ウットウシイ	51 (68.0)	41 (64.1)	22 (78.6)	19 (79.2)	14 (51.9)	160 (66.4)	12 (41.4)	7 (36.8)	7 (41.2)	14 (82.4)	9 (81.8)	11 (64.7)	9 (52.9)
6. ウルサイ	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.1)	2 (8.3)	1 (3.7)	6 (2.5)	1 (3.4)	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)
7. シカラシイ	2 (2.7)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (44.4)	16 (6.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)
8. シャーシイ	19 (25.3)	18 (28.1)	2 (7.1)	4 (16.7)	8 (29.6)	58 (24.1)	7 (24.1)	0 (0.0)	1 (5.9)	4 (23.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
9. ジャマ(ナ)	49 (65.3)	47 (73.4)	23 (82.1)	13 (54.2)	17 (63.0)	162 (67.2)	19 (65.5)	13 (68.4)	10 (58.8)	12 (70.6)	6 (54.5)	8 (47.1)	10 (58.8)
10. ジャマクサイ	14 (18.7)	14 (21.9)	12 (42.9)	6 (25.0)	3 (11.1)	52 (21.6)	7 (24.1)	4 (21.1)	7 (41.2)	3 (17.6)	6 (54.5)	7 (41.2)	6 (35.3)
11. シルシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. シロシイ	2 (2.7)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
13. セカラシイ	3 (4.0)	4 (6.3)	1 (3.6)	0 (0.0)	14 (51.9)	24 (10.0)	11 (37.9)	4 (21.1)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
14. テソイ	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)
15. メザワリ	13 (17.3)	7 (10.9)	6 (21.4)	2 (8.3)	3 (11.1)	32 (13.3)	4 (13.8)	4 (21.1)	2 (11.8)	4 (23.5)	1 (9.1)	1 (5.9)	2 (11.8)
16. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (13.8)	4 (21.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
17. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (57.9)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)
18. ヤゼラシイ	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	5 (26.3)	4 (23.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)
19. ヨダキイ	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
20. その他	1	1	0	0	1	4	0	0	1	0	0	2	0

別表—Ⅵ 項目 f 〈空腹感に伴う身体的な不快感〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	75	64	28	24	27	241	29	19	17	17	11	17	17
1. ウザイ	5 (6.7)	1 (1.6)	1 (3.6)	2 (8.3)	2 (7.4)	12 (5.0)	2 (6.9)	3 (15.8)	2 (11.8)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
2. ウザッタイ	1 (1.3)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
3. ウザッタラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. エライ	3 (4.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	5 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (64.7)
5. カツルイ	7 (9.3)	13 (20.3)	6 (21.4)	3 (12.5)	4 (14.8)	34 (14.1)	7 (24.1)	1 (5.3)	2 (11.8)	2 (11.8)	1 (9.1)	3 (17.6)	3 (17.6)
6. キツイ	38 (50.7)	39 (60.9)	15 (53.6)	13 (54.2)	17 (63.0)	133 (55.2)	15 (51.7)	8 (42.1)	8 (47.1)	9 (52.9)	3 (27.3)	6 (35.3)	9 (52.9)
7. ケダルイ	2 (2.7)	2 (3.1)	3 (10.7)	0 (0.0)	1 (3.7)	8 (3.3)	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
8. シカラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
9. シャーシイ	2 (2.7)	1 (1.6)	0 (0.0)	2 (8.3)	2 (7.4)	7 (2.9)	3 (10.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. シルシイ	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.4)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11. シロシイ	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.4)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. シンドイ	33 (44.0)	27 (42.2)	11 (39.3)	9 (37.5)	6 (22.2)	93 (38.6)	8 (27.6)	10 (52.6)	6 (35.3)	3 (17.6)	7 (63.6)	7 (41.2)	5 (29.4)
13. セカラシイ	1 (1.3)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.4)	5 (2.1)	3 (10.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
14. セツナイ	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (3.6)	2 (8.3)	2 (7.4)	7 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	2 (11.8)
15. センナイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (29.4)
16. タイギ(ナ)	2 (2.7)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)
17. ダラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	0 (0.0)	1 (3.7)	2 (0.8)	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
18. タルイ	6 (8.0)	4 (6.3)	1 (3.6)	1 (4.2)	1 (3.7)	13 (5.4)	2 (6.9)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (5.9)	1 (5.9)
19. ダルイ	38 (50.7)	36 (56.3)	13 (46.4)	16 (66.7)	16 (59.3)	130 (53.9)	14 (48.3)	10 (52.6)	12 (70.6)	10 (58.8)	6 (54.5)	9 (52.9)	10 (58.8)
20. ツライ	17 (22.7)	14 (21.9)	7 (25.0)	3 (12.5)	4 (14.8)	48 (19.9)	5 (17.2)	5 (26.3)	3 (17.6)	2 (11.8)	2 (18.2)	0 (0.0)	2 (11.8)
21. テソイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (41.2)	0 (0.0)
22. ナンギ(ナ)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)
23. ヒダルイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (20.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
24. ヒモジイ	15 (20.0)	22 (34.4)	4 (14.3)	8 (33.3)	4 (14.8)	58 (24.1)	6 (20.7)	7 (36.8)	6 (35.3)	2 (11.8)	4 (36.4)	3 (17.6)	2 (11.8)
25. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
26. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (21.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
27. ヤゼラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (10.5)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
28. ヨダキイ	1 (1.3)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (47.1)	5 (45.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
29. その他	2	4	0	0	0	6	1	0	1	1	0	0	0

別表—Ⅶ 項目g 〈雨夜の出迎えのときの気持ち〉

	福岡市	福岡域	北九州域	筑豊域	筑後域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	山口県
	75	64	28	24	27	241	29	19	17	17	11	17	17
1. ウザイ	21 (28.0)	14 (21.9)	10 (35.7)	5 (20.8)	9 (33.3)	67 (27.8)	13 (44.8)	12 (63.2)	1 (5.9)	3 (17.6)	3 (27.3)	0 (0.0)	5 (29.4)
2. ウザッタイ	6 (8.0)	7 (10.9)	3 (10.7)	2 (8.3)	3 (11.1)	22 (9.1)	4 (13.8)	2 (10.5)	1 (5.9)	2 (11.8)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)
3. ウザッタラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. オックウ(ナ)	9 (12.0)	3 (4.7)	3 (10.7)	1 (4.2)	1 (7.4)	20 (8.3)	1 (3.4)	1 (5.3)	3 (17.6)	1 (5.9)	1 (9.1)	1 (5.9)	3 (17.6)
5. カツタルイ	9 (12.0)	14 (21.9)	3 (10.7)	4 (16.7)	6 (22.2)	38 (15.8)	3 (10.3)	0 (0.0)	3 (17.6)	2 (11.8)	0 (0.0)	1 (5.9)	2 (11.8)
6. シカラシイ	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.8)	6 (2.5)	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
7. シャーシイ	9 (12.0)	11 (17.2)	3 (10.7)	3 (12.5)	9 (33.3)	38 (15.8)	6 (20.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
8. シルシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
9. シロシイ	2 (2.7)	2 (3.1)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)	7 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. シンドイ	10 (13.3)	10 (15.6)	7 (25.0)	3 (12.5)	7 (25.9)	40 (16.6)	5 (17.2)	4 (21.1)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (9.1)	4 (23.5)	6 (35.3)
11. セカラシイ	2 (2.7)	4 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (40.7)	20 (8.3)	13 (44.8)	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12. タイギ(ナ)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (35.3)
13. ダラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
14. ダルイ	11 (14.7)	14 (21.9)	6 (21.4)	5 (20.8)	6 (22.2)	44 (18.3)	5 (17.2)	7 (36.8)	5 (29.4)	6 (35.3)	8 (72.7)	8 (47.1)	9 (52.9)
15. テソイ	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (58.8)	0 (0.0)
16. ナンギ(ナ)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	1 (5.9)
17. メンドイ	51 (68.0)	40 (62.5)	22 (78.6)	14 (58.3)	16 (59.3)	155 (64.3)	13 (44.8)	12 (63.2)	9 (52.9)	4 (23.5)	6 (54.5)	7 (41.2)	14 (82.4)
18. メンドウ(ナ)	19 (25.3)	14 (21.9)	6 (21.4)	5 (20.8)	6 (22.2)	54 (22.4)	8 (27.6)	4 (21.1)	3 (17.6)	4 (23.5)	1 (9.1)	6 (35.3)	5 (29.4)
19. メンドウクサイ	35 (46.7)	31 (48.4)	14 (50.0)	12 (50.0)	10 (37.0)	109 (45.2)	13 (44.8)	7 (36.8)	10 (58.8)	7 (41.2)	5 (45.5)	9 (52.9)	6 (35.3)
20. メンドッチー	19 (25.3)	9 (14.1)	8 (28.6)	3 (12.5)	10 (37.0)	51 (21.2)	2 (6.9)	1 (5.3)	2 (11.8)	3 (17.6)	5 (45.5)	1 (5.9)	6 (35.3)
21. ヤグラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	3 (10.3)	5 (26.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
22. ヤゼイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (57.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
23. ヤゼラシイ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (21.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
24. ヨダキイ	1 (1.3)	1 (1.6)	1 (3.6)	1 (4.2)	0 (0.0)	4 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (76.5)	9 (81.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
25. その他	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	2